

CD/DVDプレーヤー

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠ 警告

電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。

お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。



DVP-F15



安全のために

ソニー製品は安全に十分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあります。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。



安全のための注意事項を守る

4~7ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。10ページの「使用上のご注意」もあわせてお読みください。

定期的に点検する

設置時や1年に1度は、電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、プラグがしっかりとさし込まれているか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においが
したら、
煙が出たら



- ①電源を切る
- ②電源プラグをコンセントから抜く
- ③お買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理を依頼する

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ 警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

⚠ 注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えることがあります。

注意を促す記号



火災



感電



指挟み

行為を禁止する記号



禁止



分解禁止



接触禁止



ぬれ手禁止

行為を指示する記号



強制



プラグをコンセントから抜く

目次

安全のために	2	ディスクの情報を見る	35
⚠️ 警告・⚠️ 注意	4	音声を切り換える	36
電池についての安全上のご注意	7	字幕を表示する	37
この取扱説明書の使いかた	8	アングルを切り換える	38
再生できるディスクについて	8	デジタルシネマサウンドの設定をする	39
使用上のご注意	10	再生の情報を見る	40
ディスクの取り扱い上のご注意	11	ディスクを制限する(カスタム視聴制限)	41
<hr/>		好きな順に再生する(プログラム再生)	43
設置と準備	12	順不同に再生する(シャッフル再生)	45
付属品を確認する	12	繰り返し再生する(リピート再生)	46
テレビとつなぐ	14	再生したい部分だけを繰り返す (A-Bリピート)	47
アンプとつなぐ	16	<hr/>	
2+1チャンネルサラウンドシステムをつなぐ	18	設定と調整	49
5.1チャンネルサラウンドシステムをつなぐ ...	19	設定画面を使う	49
操作音を鳴らす(お知らせビープ)	21	設定画面項目一覧表	51
<hr/>		表示言語や音声言語の設定(言語設定)	52
再生する	22	画像に関する設定(画面設定)	53
ディスクを再生する	22	視聴に関する設定(視聴設定)	54
見たいところや聞きたいところをさがす	24	音声に関する設定(オーディオ設定)	57
再生を止めたところから再生する (リピューム再生)	25	サブウーファーの設定をする (スピーカー設定)	59
DVDのメニューを使う	26	付属のリモコンでテレビやアンプを 操作する	60
プレイバックコントロール機能を使う (PBC再生)	27	<hr/>	
表示窓の見かた	28	その他	62
<hr/>		故障かな?と思ったら	62
コントロールメニューでいろいろな 機能を使う	30	保証書とアフターサービス	65
コントロールメニューを使う	30	自己診断機能について (アルファベットで始まる表示が出たら) ...	66
コントロールメニュー画面項目一覧	32	主な仕様	67
再生するタイトル/チャプター/トラック/ インデックス/シーンを選ぶ	33	用語解説	68
経過時間と残り時間を見る	34	言語コード一覧表	70
タイムコードを使って場面を探す	34	各部のなまえ	71
		索引	74

! 警告

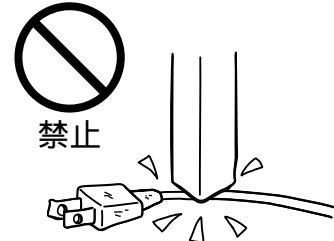


下記の注意事項を守らないと**火災・感電**により**死亡や大けが**の原因となります。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- 製品と壁や棚との間にはさみ込んだりしない。
 - 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
 - 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
 - 熱器具に近づけない。加熱しない。
 - 移動させるときは、電源プラグを抜く。
 - 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。
- 万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーサービス窓口に交換をご依頼ください。



湿気やほこりの多い場所や、油煙や湯気のある場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。特に風呂場や加湿器のそばなどでは絶対に使用しないでください。



内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。

- 万一、水や異物が入ったときは、すぐに本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。



キャビネットを開けたり、分解や改造をしない

火災や感電、けがの原因となることがあります。

- 内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。



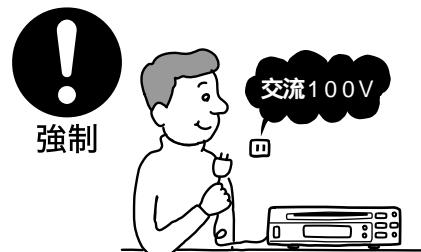
雷が鳴りだしたら、本体や電源プラグに
触れない
感電の原因となります。



本機は国内専用です

交流100Vの電源でお使いください。海外などで、異なる電源電圧で使用すると、火災・感電の原因となります。

また、コンセントの定格を越えて使用しないでください。



⚠ 注意

下記の注意事項を守らないとけがをしたり
周辺の家財に損害を与えることがあります。

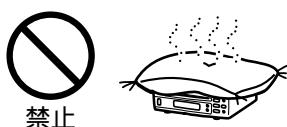
ぬれた手で電源プラグにさわらない

感電の原因となることがあります。



風通しの悪い所に置いたり、通風孔をふさいだりしない

布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または壁や家具に密接して置いて、通風孔をふさぐなど、自然放熱の妨げになるようなことはしないでください。過熱して火災や感電の原因となります。



大音量で長時間つづけて聞くかない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。特にヘッドホンで聞くときにご注意ください。

→呼びかけられたら気がつくくらいの音量で聞きましょう。



安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いたところなどに置くと、製品が落ちてけがの原因となることがあります。また、置き場所、取り付け場所の強度も充分に確認してください。



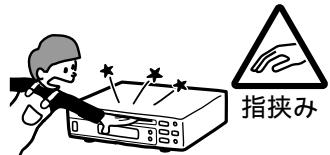
ディスクスロットの前に物を置かない

ディスクが出る際に、物が倒れて破損やけがの原因となることがあります。本体の前に物を置かないでください。



幼児の手の届かない場所に置く

ディスクの挿入口などに手をはまれ、けがの原因となることがあります。お子さまがさわらぬようにご注意ください。



コード類は正しく配置する

電源コードやAVケーブルは足にひっかけると機器の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。充分に注意して接続、配置してください。



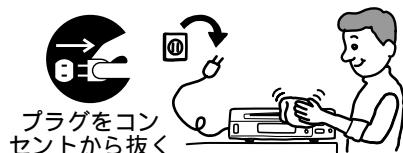
移動させるとき、長期間使わないときは、電源プラグを抜く

長期間使用しないときは安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化、漏電などにより火災の原因となることがあります。



お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。



ひび割れ、変形したディスクや補修したディスクを再生しない

本体内部でディスクが破損し、けがの原因となることがあります。



電池についての 安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱による大けがや失明を
避けるため、下記の注意事項を必ずお守り
ください。

⚠ 警告

アルカリ電池の液が漏れたときは

素手で液をさわらない

アルカリ電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。そのときに異常がなくても、液の化学変化により、時間がたってから症状が現れることがあります。



接触禁止

必ず次の処理をする

→ 液が目に入ったときは、目をこすらず、
すぐに水道水など
のきれいな水で充分
洗い、ただちに
医師の治療を受け
てください。



強制

→ 液が身体や衣服についたときは、すぐに
きれいな水で充分洗い流してください。
皮膚の炎症やけがの症状があるときは、
医師に相談してください。

電池は乳幼児の手の届かない所に置く
電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。

→ 万一、飲み込んだときは、
ただちに医師に相談
してください。



禁止

電池を火の中に入れない、加熱・分解・
改造・充電しない、水で濡らさない

破裂したり、液が漏れたりして、けがやけどの原因となることがあります。



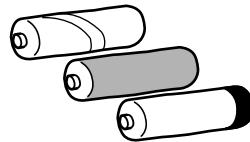
禁止

⚠ 注意

指定以外の電池を使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがやけどの原因となることがあります。

→ 電池の品番を確かめ、お使いください。

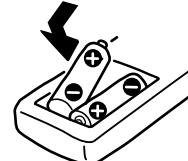


禁止

+と-の向きを正しく入れる

+と-を逆に入れると、ショートして電池が発熱や破裂をしたり、液が漏れたりして、けがやけどの原因となることがあります。

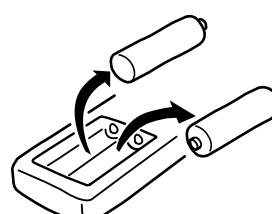
→ 機器の表示に合わせて、正しく入れてください。



強制

使い切ったときや、長時間使用しないときは、電池を取り出す

電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがやけどの原因となることがあります。



強制

この取扱説明書の使いかた

- 「設置と準備」(12~21ページ)をご覧になって接続などの準備を済ませてください。
- 基本的な使いかたは、「再生する」(22~29ページ)をご覧ください。
- さらに進んだ使いかたについては、30ページ以降をご覧ください。
- この取扱説明書では、次の記号を使っています。

記号	意味
	リモコンで操作します。
	知っていると便利な情報です。
	DVDビデオで使える機能です。
	ビデオCDで使える機能です。
	音楽用CDで使える機能です。

再生できるディスクについて

本機では次のディスクを再生できます。次のディスク以外は再生できません。

ディスクの種類	DVDビデオ		ビデオCD		音楽用CD	
ディスクに付いているマーク(ロゴ)						
記録しているもの	音声+映像		音声+映像		音声	
ディスクの大きさ	12cm	8cm	12cm	8cm	12cm	8cm (CDシングル)
最長再生時間	約4時間(片面) 約8時間(両面)	約80分(片面) 約160分(両面)	74分	20分	74分	20分

"DVD VIDEO" ロゴは商標です。

本機はNTSCカラーテレビ方式に対応しています。NTSC以外のカラーテレビ方式(PAL、SECAM)対応のディスクは再生できません。

再生可能なDVDの地域番号(リージョンコード)について

DVDにはのように地域番号が表示されているものがあります。表示中の数字は再生できるプレーヤーの地域番号を表わしています。この表示に「2」が含まれていない、またはの表示のないDVDは、本機で再生できません。このようなDVDを再生しようとしたときは、「このディスクは地域制限により再生を禁止されています」と画面に表示されます。また地域番号の表示がないDVDでも地域制限されている場合があり、本機で再生できないことがあります。

DVD、ビデオCD再生時の操作上のご注意

DVD、ビデオCDはソフト制作者の意図により再生状態が決められていることがあります。本機ではソフト制作者が意図したディスク内容にしたがって再生を行うため、操作したとおりに機能が働かない場合があります。再生するディスクに付属の説明書も必ずご覧ください。

再生できるディスクについて

DVDに表示されているマークの説明

DVDのディスクやパッケージに表示されているマークには以下のようないことがあります。これらのマークは、ディスクに記録されている内容や、使える機能を表しています。ただし、機能があっても、マークが表示されていないDVDもあります。

マーク	意味
(3)	音声のトラック数を表します。
2	字幕の数を表します。
3	アングル数を表します。
16:9 LB	選択可能な画像アスペクト比を表します。
WORLD	再生可能な地域番号を表します。

ディスクに関する用語の説明

・ タイトル

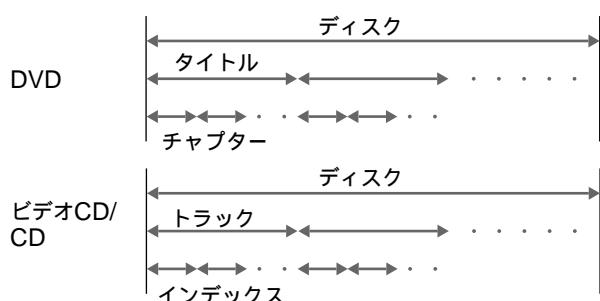
DVDに記録されている映像や曲のいちばん大きな単位です。通常は映像ソフトでは映画1作品、音楽ソフトではアルバム1枚(または1曲)にあたります。それぞれのタイトルに順に付けられた番号をタイトル番号といいます。

・ チャプター

DVDに記録されている映像や曲の区切りで、タイトルより小さい単位をチャプターといいます。1つのタイトルはいくつかのチャプターで構成されます。それぞれのチャプターに順に付けられた番号をチャプター番号といいます。ディスクによってはチャプターが記録されていないものもあります。

・ トラック

ビデオCDやCDに記録されている映像や曲の区切り(1曲分)をトラックといいます。それぞれのトラックに順に付けられた番号をトラック番号といいます。



- インデックス(CD)/ビデオインデックス(ビデオCD)
ビデオCDおよびCDで、再生したい部分を見つけやすいように、1つのトラックをいくつかの部分に区切って番号を付けたものです。

ディスクによってはインデックスが記録されていないものもあります。

・ シーン

PBC(プレイバックコントロール)対応のビデオCDで、メニュー画面や動画、静止画の区切りのことをシーンと言います。シーンごとに順に付けられた番号をシーン番号と言います。

PBC(プレイバックコントロール)について (ビデオCD)

本機は、PBC対応ビデオCD(バージョン2.0)にも対応しています。(PBCとは、Playback Controlの略です。)ディスクのタイプによって、次の2種類の再生を楽しめます。

ディスクのタイプ	楽しみかた
PBC対応でないビデオCD(バージョン1.1)	音楽用CDと同じように操作して、音声と映像(動画)を再生できます。
PBC対応ビデオCD(バージョン2.0)	上記(PBC対応でない場合)の楽しみかたに加えて、テレビ画面に表示されるメニュー画面(選択画面)を使って、対話型のソフトや検索機能のあるソフトを再生できます(PBC再生、27ページ)。また、高精細の静止画も再生できます。

本機で再生できないディスクについて

本機では次のディスクなどを再生することはできません。

- CD-ROM(PHOTO CDを含む)
- CD-R
- CD-EXTRAのデータ部分
- DVD-ROM
- DVDオーディオ
- スーパーオーディオCDのHD(ハイデンシティ)レイヤー

DTS*で記録されたCDを再生するとアナログ出力からは極端に大きなノイズが出ます。DVDプレーヤーのアナログ出力をアンプにつないでいるときは、お手持ちのシステムが破損しないよう細心の注意を払う必要があります。DTS Digital Surround™の再生をお楽しみいただくには、DVDプレーヤーのデジタル出力に5.1チャンネルの外部DTS Digital Surround™デコーダーを接続する必要があります。

本機は、マクロビジョンコーポレーションやその他の権利者が保有する、米国特許上の方法クレーム及びその他の知的所有権によって保護された著作権保護技術を搭載しています。この著作権保護技術の使用にはマクロビジョンコーポレーションの許諾が必要であり、マクロビジョンコーポレーションが特別に許諾する場合を除いては、一般家庭その他における限られた視聴用以外に使用してはならないこととされています。リバースエンジニアリングまたは分解は禁止されています。

* Digital Theater Systems, Inc.からの実施権に基づき製造されています。DTSおよびDTS Digital Surround、DTS Digital OutはDigital Theater Systems, Inc.の商標です。

使用上のご注意

設置場所について

次のような場所には置かないでください。

- ・ぐらついた台の上や不安定な所。
- ・じゅうたんや布団の上。
- ・湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ・ほこりの多い所。
- ・直射日光が当たる所、温度が高い所。
- ・極端に寒い所。
- ・チューナーやテレビ、ビデオデッキから近い所。
(チューナーやテレビ、ビデオデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナのときに起こりやすいので屋外アンテナの使用をおすすめします。)

設置場所を変えるときは

ディスクを入れたまま、本機を動かさないでください。

ディスクを入れたまま動かすと、ディスクを傷めことがあります。

音量を調節するときは

ディスクはレコードと比べ、非常に雑音が少なくなっています。レコードをかけるときのように音声の入っていない部分の雑音を聞きながら音量を調節すると、思わぬ大きな音が出て、スピーカーを破損するおそれがあります。

演奏を始める前には、音量を必ず小さくしておきましょう。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さな音でも周囲にはよく通るものです。

窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。



本体のお手入れのしかた

キャビネットやパネル面の汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布でふいてください。シンナー、ベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

クリーニングディスクについて

市販のCD/DVDレンズ用のクリーニングディスクは、本機では使わないでください。故障するおそれがあります。

残像現象(画像の焼きつき)のご注意

DVDメニュー、タイトルメニュー、ビデオCDのメニュー、本機の設定画面などの静止画をテレビ画面に表示したまま長時間放置しないでください。画面に残像現象(画像の焼きつき)を起こす場合があります。特にプロジェクションテレビでは残像現象(画像の焼きつき)が起こりやすいのでご注意ください。

結露について

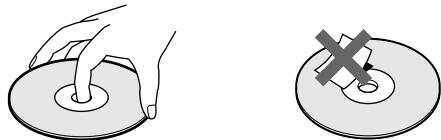
部屋の暖房を入れた直後など、内部のレンズに水滴がつくことがあります。これを結露といいます。このときは、正常に動作しないばかりでなく、ディスクや部品を傷めることができます。本機を使わないときは、ディスクを取り出しておいてください。

結露が生じたときは、ディスクを取り出して、電源を入れたまま約30分放置し、再度電源を入れ直してからお使いください。もし何時間たっても正常に動作しないときは、ソニーサービス窓口にご相談ください。

ディスクの取り扱い上のご注意

取り扱いかた

- 再生面に手を触れないように持ちます。
- 紙やシールを貼らないでください。



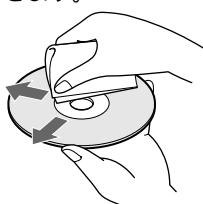
- ディスクにセロハンテープやレンタルディスクのラベルなどの糊がはみ出したり、はがした痕があるものはお使いにならないでください。そのまま本機にかけるとディスクが取り出せなくなったり、故障する原因となることがあります。
- 新しいディスクの中には、ディスクの縁から接着剤がはみ出しているものがあります。このようなディスクをプレーヤーに入れようとしても、ディスク挿入口で詰まることがあります。プレーヤーに入れる前に、ペンや鉛筆の側面でディスクの縁を軽くこすり、はみ出した接着剤を伸ばしてください。このとき、ディスクの再生面を触らないように注意してください。接着剤のべとつきが少なくなったら、プレーヤーにディスクを入れてください。
- 新しいディスクの中には、ディスクの縁がギザギザしているものがあります。このような場合は、ペンや鉛筆の側面でディスクの縁をこすり、ギザギザをなくしてください。縁にギザギザがあるディスクを使うと、プレーヤーに正しく挿入されないことや、プラスチックの破片がディスクの再生面に付着し、音とびの原因となることがあります。

保存のしかた

- 直射日光が当たるところなど温度の高い所、湿度の高い所には置かないでください。
- ケースに入れて保存してください。ケースに入れずに重ねたり、立てかけておくと変形の原因になります。

お手入れのしかた

- 指紋やほこりによるディスクの汚れは、映像の乱れや音質低下の原因になります。いつもきれいにしておきましょう。
- ふだんのお手入れは、柔らかい布でディスクの中心から外の方向へ軽くふきます。



- 汚れがひどいときは、水で少し湿らせた柔らかい布でふいた後、さらに乾いた布で水気をふき取ってください。
- ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などは、ディスクを傷めることができますので、使わないでください。

特殊な形状のディスクについて

本機でお使いいただけるディスクは円形ディスクのみです。円形以外の特殊な形状(星形、ハート型など)をしたディスクを使用すると、本機の故障の原因となることがあります。

設置と準備

ここでは、本機とテレビやアンプとの接続のしかたを説明します。なお、本機は映像入力端子がないテレビには接続できません。接続するときは、機器の電源を必ず切ってください。

付属品を確認する

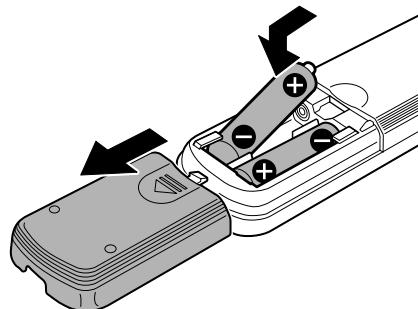
次の付属品がそろっているかを確認してください。

- ・ 映像音声コード
(ピンプラグ×3←ピンプラグ×3)(1)
- ・ リモコン RMT-D125J(1)
- ・ 単3形乾電池(R6)(2)
- ・ ソニーご相談窓口のご案内(1)
- ・ 保証書(1)

もし、付属品がそろっていないときは、お買い上げ店、またはソニーサービス窓口にご連絡ください。

リモコンに電池を入れる

⊕と⊖の向きを合わせて、単3形乾電池(R6、付属)2個を入れる。



✿ リモコンでテレビやAVアンプを操作できます
60ページをご覧ください。

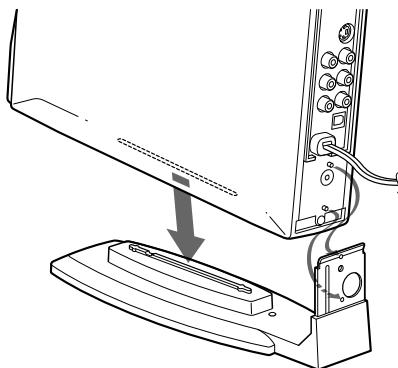
ご注意

- ・ 乾電池の使いかたを誤ると、液もれや破裂のおそれがあります。次のことを必ず守ってください。
 - ⊕と⊖の向きを正しく入れてください。
 - 新しい乾電池と使った乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使わないでください。
 - 乾電池は充電しないでください。
 - 長い間リモコンを使わないときは、乾電池を取り出してください。
 - 液もれしたときは、電池入れについた液をよくふき取ってから新しい乾電池を入れてください。
- ・ リモコンを使うときは、リモコン受光部図に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。リモコンで操作できないことがあります。

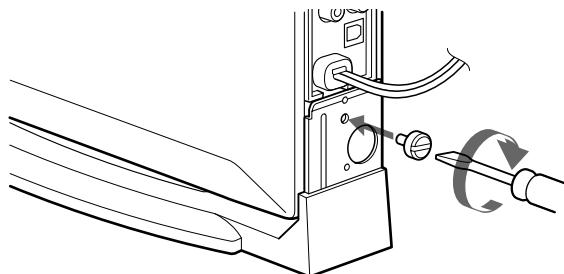
縦に置く

別売りのスタンドSU-SF15に取り付けると、本機を縦に置くことができます。

- 1 本機側面の溝とスタンドの突起部を合わせて、本機をスタンドに載せる。



- 2 スタンドに付属のネジで、スタンドを固定する。



ご注意

- 横置きにするときは、スタンドを取り外してください。
- 本機を移動するときは、プレーヤー本体を持ってください。スタンドを持つと、スタンドが破損することがあります。
- スタンドを取り付けずに、プレーヤー本体を縦に置かないでください。プレーヤー本体が安定しないため、倒れることがあります。

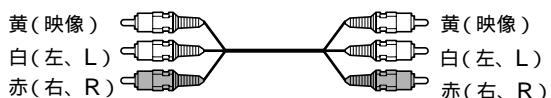
テレビとつなぐ

テレビのスピーカー(L:左、R:右)から音を出すときの接続です。接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

 テレビのスピーカーだけでサラウンド音声を楽しめます
ステレオ信号を3D立体音像処理により、リアスピーカーを使わずに
テレビのスピーカーのみで、仮想サラウンドをお楽しみいただけます(VES TV: バーチャル エンハンスト サラウンド TV)。詳しくは、39ページをご覧ください。

必要な接続コード

映像音声コード(付属: 1本)



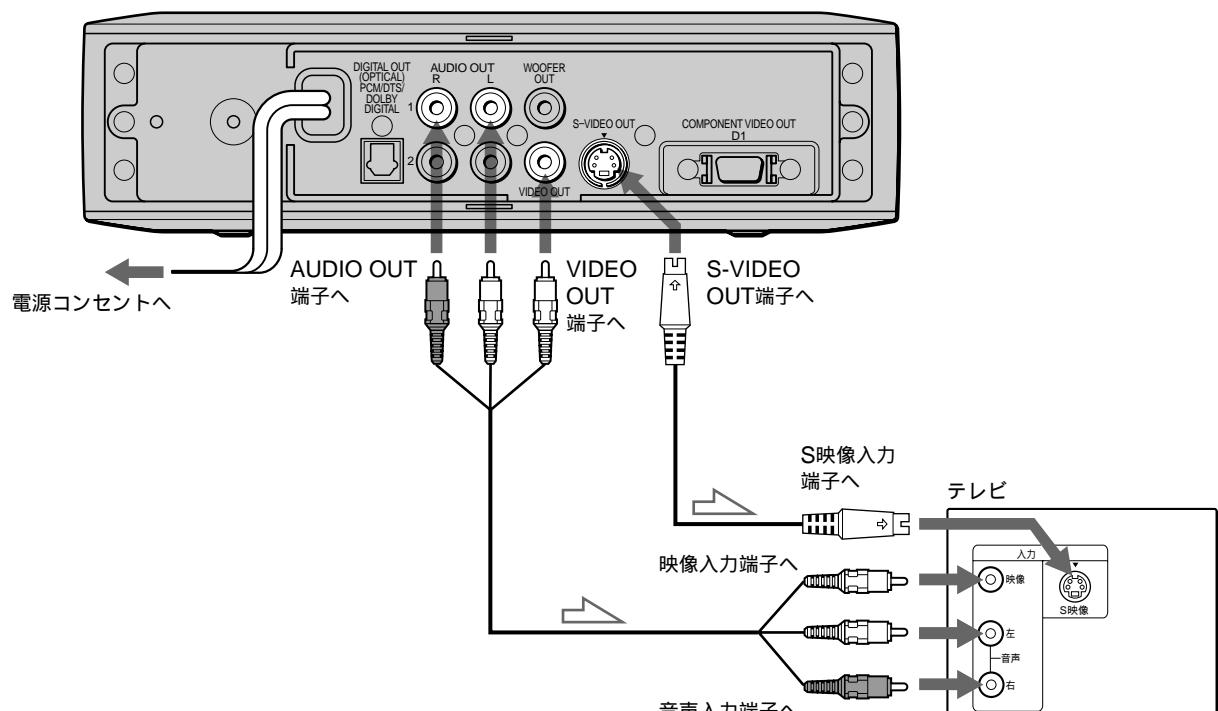
S映像コード(別売り: 1本)



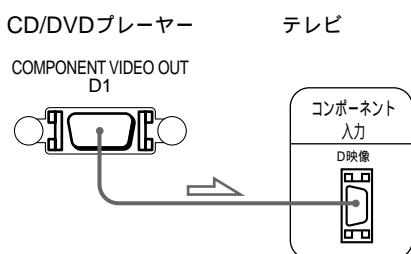
黄(映像、VIDEO OUT)端子に黄プラグを、白(左、L)端子には白プラグを、赤(右、R)端子には赤プラグをつなぎます。つなぐときはプラグを端子にしっかりと差し込んでください。しっかりと差し込まないと雑音やノイズの原因になります。

S映像入力端子付きのテレビをお使いのときは、黄色の映像コードでつなぐ代わりに、S映像コード(別売り)をつなぎます。よりきれいな映像が楽しめます。

CD/DVDプレーヤー

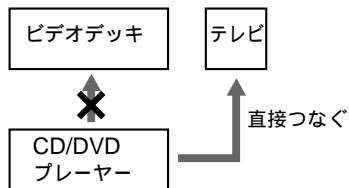


本機のCOMPONENT VIDEO OUT(コンポーネントビデオ出力)D1端子の信号に対応した入力端子を持つテレビにつなぐときは
D端子ケーブル(別売り)を使って、D映像入力端子につなぎます。ケーブル1本で簡単にコンポーネント映像で接続でき、より高画質な画像を楽しめます。



ご注意

- つなぐ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- パーソナルコンピュータのD端子には接続できません。
- 本機とビデオデッキを接続しないでください。ビデオデッキを経由して本機の映像をテレビに映すと、画像が乱れことがあります。



- テレビやアンプによっては、音声出力のレベルが高いため、音が歪むことがあります。そのときは設定画面の「オーディオ設定」から「オーディオ ATT」を選んで「入」にしてください。詳しくは57ページをご覧ください。

設定をする

接続した機器に合わせて、本機の設定をします。
設定を変えるには、設定画面を使います。詳しくは49ページをご覧ください。

ワイドテレビまたはワイドモード機能付きのテレビとつないだとき

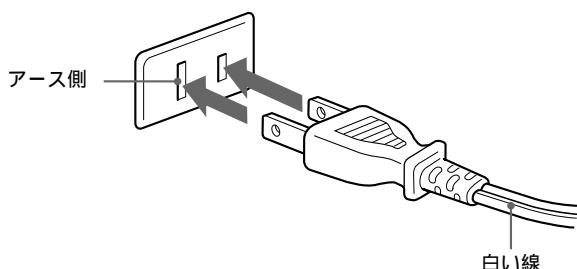
設定画面の「画面設定」の「TVタイプ」を「16:9」にします。お買い上げ時は「16:9」に設定されています(53ページ)。

通常のテレビとつないだとき

設定画面の「画面設定」の「TVタイプ」を「4:3 レターボックス」または「4:3 パンスキャン」にします(53ページ)。

電源コードの極性について

各機器の電源コードの極性を合わせて、より良い音質で音楽をお楽しみいただくため、本機の電源コードには白い線が付いています。白い線が入っている側がコンセントの差し込み口の長い方(アース側)にくるように差し込みます。電源コードはすべての接続が終わってから差し込んでください。



アンプにつなぐ

DTSデコーダーまたはドルビー^{*}デジタルデコーダーが内蔵されていないアンプにつないだスピーカーから音を出すときの接続です。接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

フロントスピーカーしかつないでいるときもサラウンド音声を楽しめます

ステレオ信号を3D立体音像処理により、リアスピーカーを使わずにフロントスピーカー(L、R)のみで、仮想サラウンドをお楽しみいただけます(VES：バーチャル エンハンスト サラウンド)。詳しくは、39ページをご覧ください。

DTSまたはドルビーデジタルデコーダー内蔵のデジタル機器をお持ちの場合は

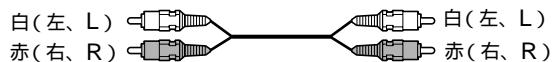
光デジタル接続コードを本機のDIGITAL OUT (OPTICAL)端子に接続すると、マルチチャンネルサラウンドサウンドを楽しむことができます。詳しくは、19ページをご覧ください。

* ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。 Dolby、ドルビー、Pro Logic及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

非公開機密著作物。著作権1992-1997年ドルビーラボラトリーズ。不許複製。

必要な接続コード

音声コード(別売り: 1本)



S映像コード(別売り: 1本)

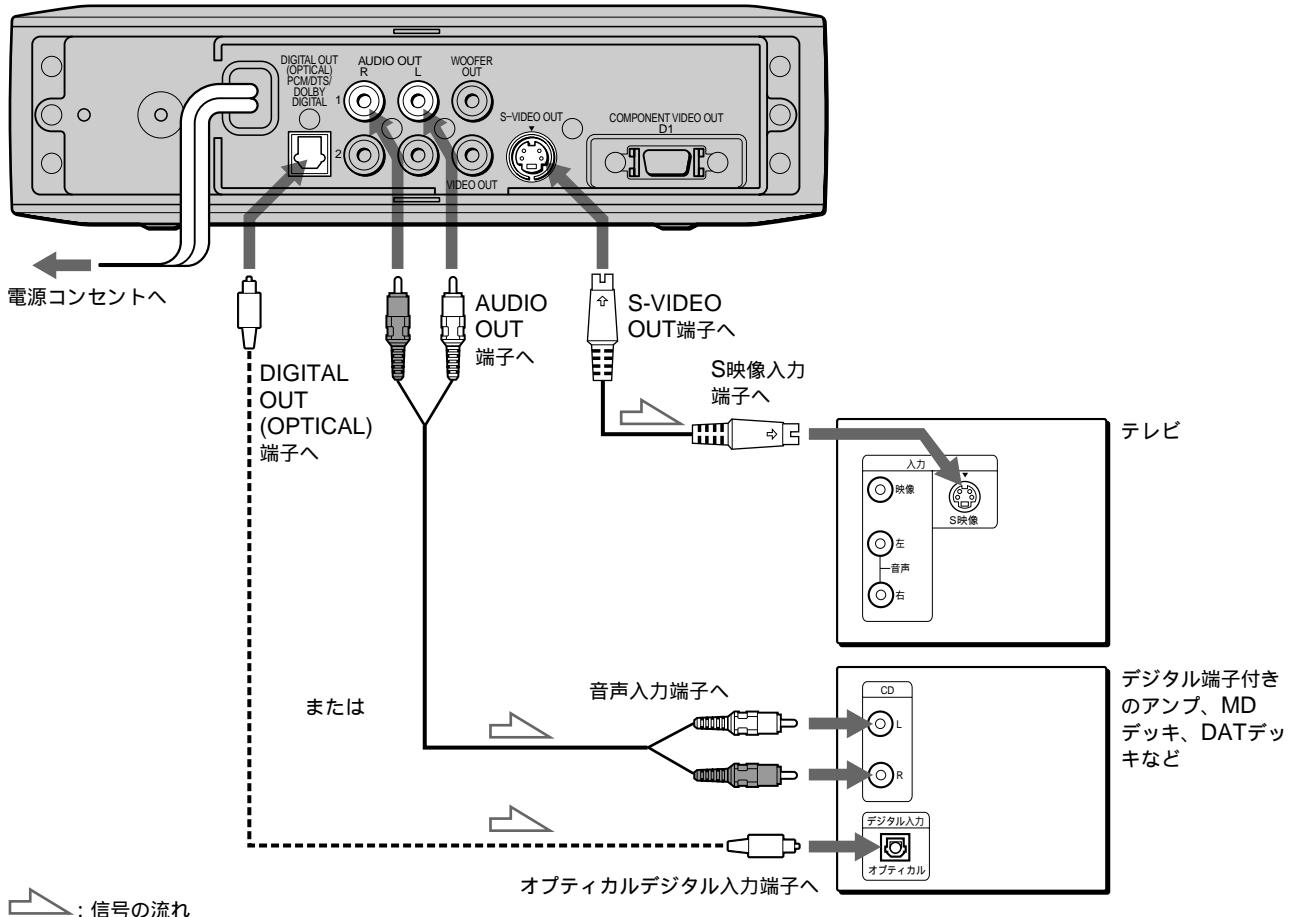


白(左、L)端子には白プラグを、赤(右、R)端子には赤プラグをつなぎます。つなぐときはプラグを端子にしっかり差し込んでください。しっかり差し込まないと雑音やノイズの原因になります。デジタル端子付きのアンプやMDデッキ、DATデッキにつなぐときは、オーディオ用光デジタル接続コード(別売り)を使います。

光デジタル接続コード(別売り: 1本)



CD/DVDプレーヤー



ご注意

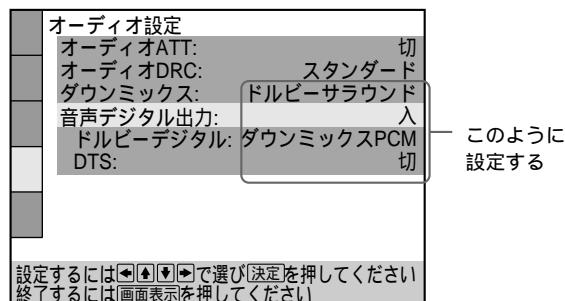
- ・テレビにS映像入力端子がないときは、S映像信号で画像を見るることはできません。テレビにS映像入力端子がないときは、映像音声コード(付属)または黄色の映像コード(別売り)を使って本機のVIDEO OUT端子とテレビの映像入力端子を接続してください。
- ・映像音声コードを使うときは黄プラグだけをつなぎます。赤プラグと白プラグはつなぎません。詳しくは14ページをご覧ください。
- ・テレビに付属の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- ・つなぐ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- ・マルチチャンネルサラウンド方式で記録されたディスクの音声を、そのままMDデッキやDATデッキでデジタル録音することはできません。
- ・DIGITAL OUT (OPTICAL)端子に機器をつないだときは、「VES」を「切」に設定してください。「切」以外に設定すると、「オーディオ設定」の「ドルビーデジタル」を「ダウンミックスPCM」にしたとき、ドルビーデジタルの信号がDIGITAL OUT (OPTICAL)端子から出力されません。

設定をする

接続した機器に合わせて、本機の設定をします。

設定を変えるには、設定画面を使います。詳しくは49ページをご覧ください。

DTSまたはドルビーデジタルデコーダーが内蔵されていないデジタルアンプにつないで音を出すときや、MDやDATなどのデジタル機器に出力するとき
設定画面の「オーディオ設定」を次のように設定してください。これらは、お買い上げ時の設定です。



コントロールメニュー(39ページ)の「VES」を「切」にしてください。「切」以外に設定すると、スピーカーから音が出ません。

光デジタル接続コードを使って接続しているときは、「オーディオ設定」の「ドルビーデジタル」を「ドルビーデジタル」に、「DTS」を「入」にしないでください。突然大音量が出て耳に悪影響を及ぼしたり、スピーカーを破損したりすることがあります。

ご注意

DIGITAL OUT端子からドルビーサラウンド(プロロジック)の効果音をかけていない信号を出力するときは、設定画面の「オーディオ設定」の「ダウンミックス」を「ノーマル」に設定してください。(57ページ)

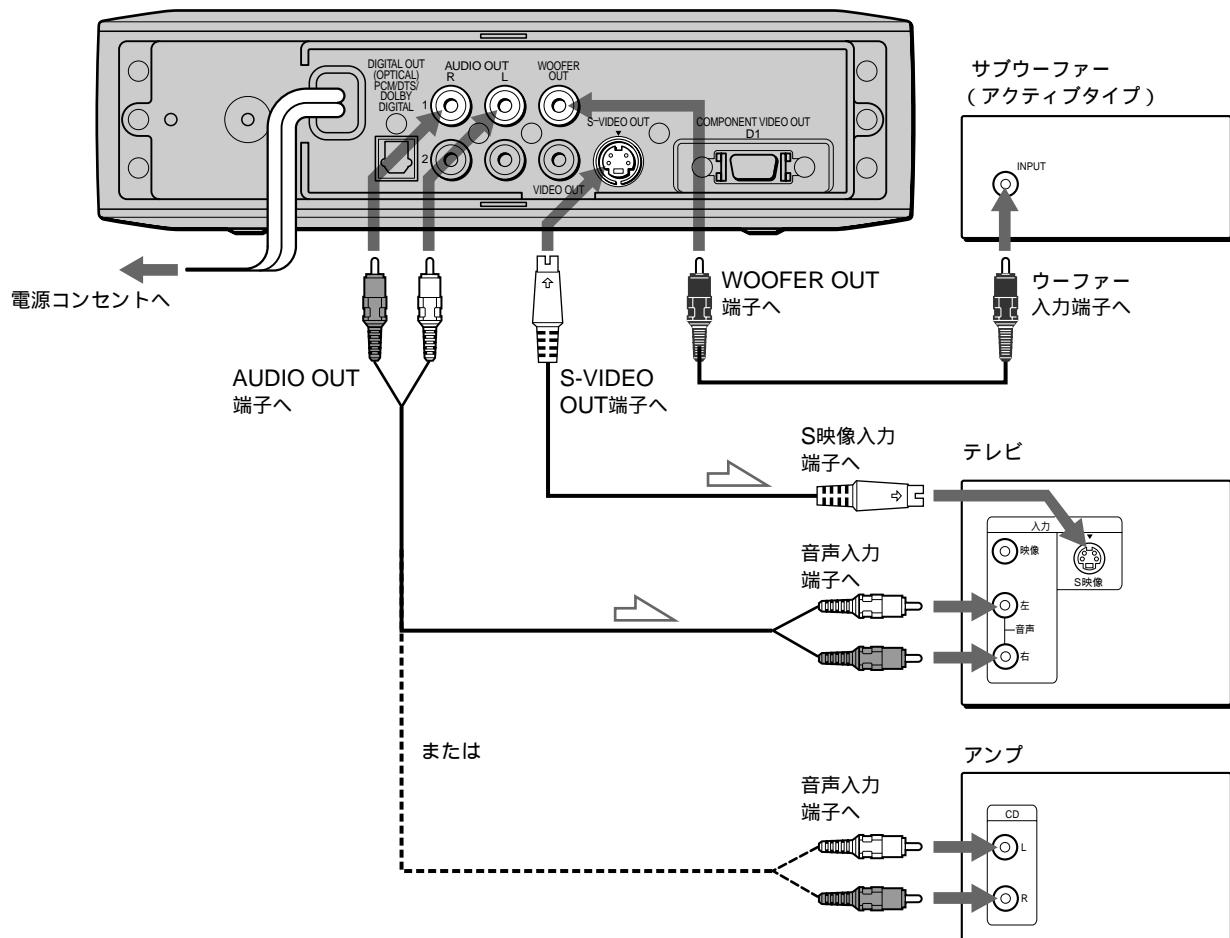
2+1チャンネルサラウンドシステムをつなぐ

テレビの左右のスピーカー、またはアンプにつないだ左右のスピーカーにサブウーファーを加える接続です。サブウーファーをつなぐと、豊かな低音を楽しむことができます。接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。この場合、「スピーカー設定」の「サブウーファー」を「あり」に設定し、「フロントスピーカーサイズ」を、テレビのスピーカーを使用する場合は「テレビ」に、アンプにつないだスピーカーの場合はスピーカーの大きさに合わせて「大」「中」「小」に設定します。詳しくは59ページをご覧ください。

 フロントスピーカーしかつないでいないときもサラウンド音声を楽しめます

ステレオ信号を3D立体音像処理により、リアスピーカーを使わずにフロントスピーカー(L、R)のみで、仮想サラウンドをお楽しみいただけます(VES：バーチャルエンハンストサラウンド)。詳しくは39ページをご覧ください。

CD/DVDプレーヤー



 : 信号の流れ

5.1チャンネルサラウンドシステムをつなぐ

DTSまたはドルビーデジタルデコーダー内蔵のデジタル機器を本機につなぐと、DTSまたはドルビーデジタル方式で音声が記録されているDVDを、劇場やコンサートホールのような臨場感で楽しむことができます。サラウンド音声は、本機のDIGITAL OUT (OPTICAL)端子から出力されます。光デジタル端子のついたアンプと6個のスピーカー(フロント、リア、センター、サブウーファー)を使うと、ご家庭に居ながら、さらに高い再現性を楽しむことができます。

必要な接続コード

光デジタル接続コード*(別売り：1本)



S映像コード(別売り：1本)



* DIGITAL OUT (OPTICAL)端子に接続するときは、オーディオ用光デジタル接続コード(別売り)を使ってください。詳しくは20ページをご覧ください。

ご注意

- 電源を必ず切ってから接続してください。すべての接続が完了するまで、電源コードは接続しないでください。
- つなぐ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- プラグはしっかりと差し込んでください。不完全な接続は雑音の原因となります。

設定をする

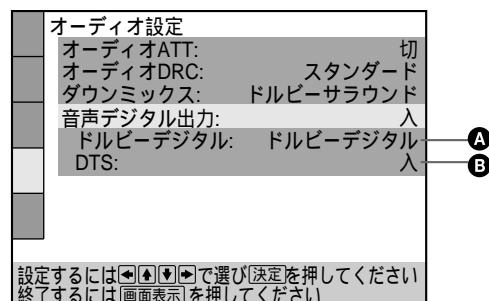
接続した機器に合わせて、本機の設定をします。

設定を変えるには、設定画面を使います。詳しくは49ページをご覧ください。

ドルビーデジタルデコーダー内蔵のオーディオ機器と接続するとき **A**

設定画面の「オーディオ設定」の「音声デジタル出力」を「入」にして、「ドルビーデジタル」を「ドルビーデジタル」に設定してください(57ページ)。

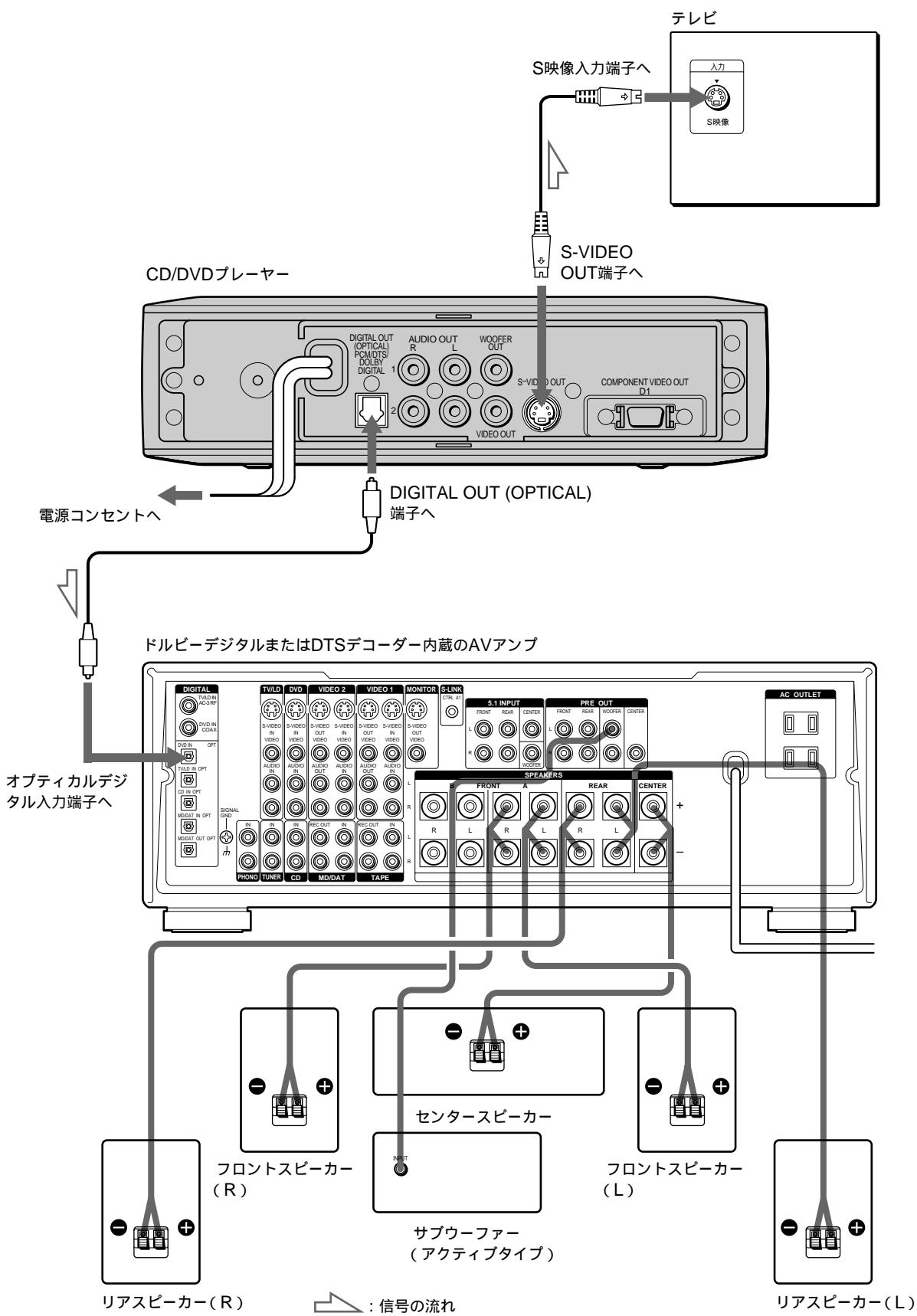
DTSデコーダー内蔵のオーディオ機器と接続するとき **B**
設定画面の「オーディオ設定」の「音声デジタル出力」を「入」にして、「DTS」を「入」に設定してください(57ページ)。



ご注意

- ドルビーデジタルデコーダー内蔵のオーディオ機器をつながないときは、「ドルビーデジタル」を「ドルビーデジタル」にしないでください。
- DTSデコーダー内蔵のオーディオ機器をつながないときは、「DTS」を「入」にしないでください。

5.1チャンネルサラウンドシステムをつなぐ

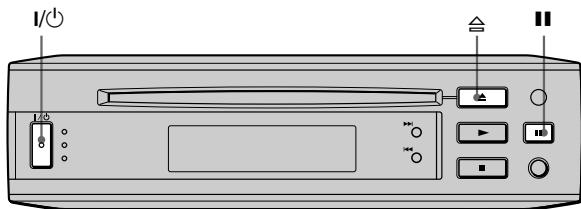


操作音を鳴らす(お知らせビープ)

次のような操作をしたときに、操作音を鳴らすことができます。

お買い上げ時は操作音が鳴らないように設定されています。

操作	操作音
電源を入れたとき	「ピッ」(1回)
電源を切ったとき	「ピピッ」(2回)
▷を押したとき	「ピッ」(1回)
■を押したとき	「ピピッ」(2回)
再生が止まったとき	「ピーッ」(1回長く)
禁止されている操作を行なったとき	「ピピピッ」(3回)



- 1 本体のI/□(電源)ボタンを押す。
電源ランプが緑に点灯します。
ディスクがディスクスロットに入っているときは、合を
押してディスクを取り出してください。
- 2 本体の■を2秒以上押す。
「ピッ」と操作音が鳴って、お知らせビープ機能が設定さ
れます。

お知らせビープ機能を解除するときは
ディスクが入っていないときに、本体の■を2秒以上押しま
す。「ピピッ」と操作音が鳴って、お知らせビープ機能が解
除されます。

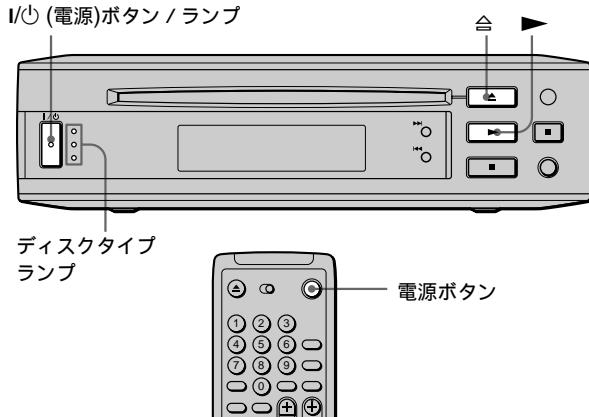
再生する

この章では、DVD、CD、VIDEO CDの再生のしかたを説明します。

ディスクを再生する

DVD VIDEO CD CD

ディスクによっては、いくつかの操作が異なることや、禁止されていることがあります。再生するディスクに付属の説明書も必ずご覧ください。



1 テレビの電源を入れる。

テレビの電源を入れ、本機の画像が映るようにテレビの入力を切り換えます。

アンプを使うときは

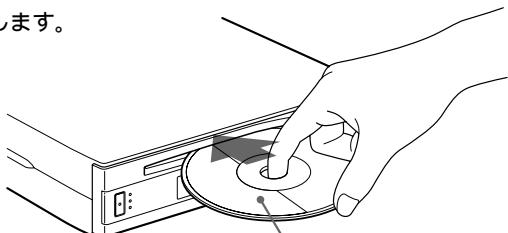
アンプの電源を入れ、本機の音声が出るようにアンプの入力を切り換えます。

2 本体のI/Off(電源)ボタンを押して、電源を入れる。

I/Off(電源)ボタンのランプ(赤)が緑に変わり、表示窓が点灯します。

3 ディスクを入れる。

入れたディスクの種類を示すディスクタイプランプが点灯します。



4 ▶を押す。

再生が始まります(ふつうの再生)。テレビまたはアンプで音量を調節します。

手順4の後に

DVDを再生しているとき

DVDによっては、タイトルメニューやDVDメニューが表示されることがあります。詳しくは26ページをご覧ください。

VIDEO CDを再生しているとき

ビデオCDによっては、テレビ画面にメニューが表示されることがあります。そのときは、表示されたメニュー画面(選択画面)にしたがって操作をして再生します(PBC再生)。PBC再生については、27ページをご覧ください。

 リモコンでも電源を入れることができます
本体前面のI/O(電源)ボタンのランプが赤く点灯しているとき、電源ボタンを押します。

CDのDTS音声を再生するときのご注意

- DTSデコーダー内蔵のオーディオ機器につないでいないときは DTS音声を再生しないでください。「オーディオ設定」の「DTS」を「切」に設定していても、DTS音声が出て耳に悪影響を及ぼしたりスピーカーを破損したりします。
- CDのDTS音声を再生するときは、コントロールメニュー画面の「音声」を「ステレオ」に設定してください(36ページ)。「1/L」または「2/R」に設定していると、DIGITAL OUT (OPTICAL)端子から音が出ません。
- CDのDTS音声を再生するとき、AUDIO OUT端子から異音が出ることがあります。耳に悪影響を及ぼしたり、スピーカーを破損したりすることがないようご注意ください。

DVDのDTS音声を再生するときのご注意

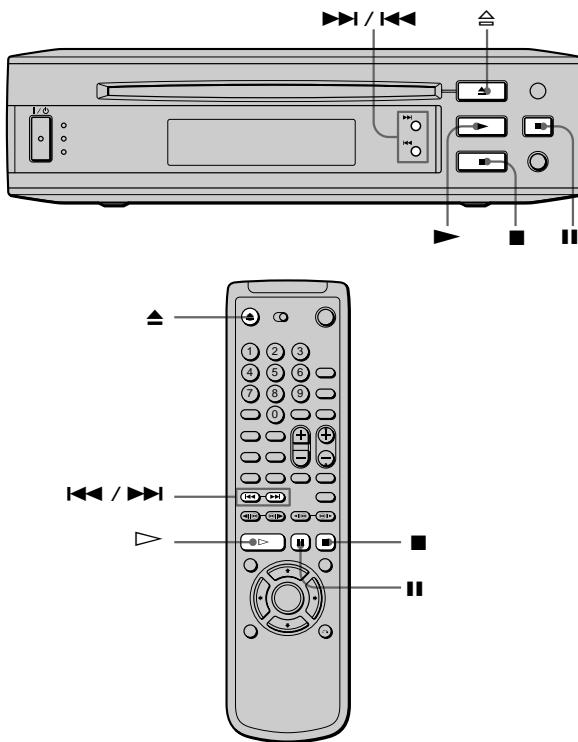
DTS音声信号はDIGITAL OUT (OPTICAL)端子からのみ出力されます。AUDIO OUT端子からは出力されません。

- DTSデコーダーを内蔵していないオーディオ機器につないでいるときは、「オーディオ設定」の「DTS」を「入」に設定しないでください。「DTS」を「入」に設定すると、異音が出て耳に悪影響を及ぼしたりスピーカーを破損したりします。
- 「オーディオ設定」の「DTS」を「切」に設定していると、DVDのDTS音声を再生してもDIGITAL OUT (OPTICAL)端子から音が出ません。

ご注意

- 停止中、または一時停止中、CD再生中に、15分以上本体またはリモコンを操作しないと、自動的にスクリーンセーバーが作動します。▷を押すとスクリーンセーバーが消えます。スクリーンセーバーについて詳しくは、53ページをご覧ください。
- ディスクを再生していないときに、30分以上本機やリモコンを操作しないと、自動的に電源が切れます(オートパワーオフ機能)。
- 本機では、8cmディスクをアダプターを使わずに再生できます。8cmディスクにシングルアダプターをつけてディスクを再生すると、故障の原因となることがあります。
- 8cmディスクを入れるときは、ディスク挿入口の中央にまっすぐ、ゆっくりと挿入してください。ディスクが取り出せないときは、お近くのソニーサービス窓口にお問い合わせください。

いろいろな操作方法



再生する

こんなときは	こうする
止める	■を押す
途中で止める	■を押す
途中で止めたあと、つづき を再生する	■または▷を押す
再生中にチャプターや映 像、曲を進める	▶▶を押す
再生中にチャプターや映 像、曲を戻す	◀◀を押す
ディスクを取り出す	▲を押す

コントロールメニュー画面を使うと、プログラム再生などいろいろな再生が楽しめます。コントロールメニュー画面の操作については、30ページをご覧ください。

見たいところや聞きたいところをさがす



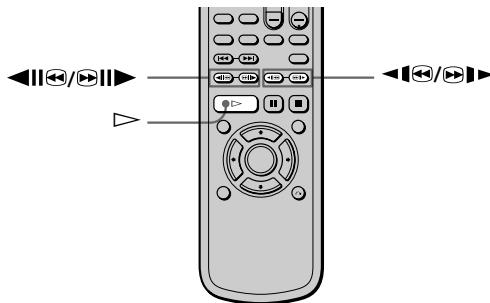
DVD

VIDEO
CD

CD

再生しながら早送りや早戻しをして、見たいところや聞きたいところをさがしたり、スロー再生やコマ送り再生することができます。

再生する



ご注意

DVD、ビデオCDによっては操作が禁止されている場合があります。

見たいところや聞きたいところをさがす (サーチ)

再生中に $\text{II}\text{I}\text{I}\text{I}$ を押し続けると、早送り $1\text{I}\text{I}\text{I}\text{I}$ *の速さで早送り再生します。再生中、 $\text{I}\text{I}\text{I}\text{I}\text{I}$ を押し続けると、早戻し $1\text{I}\text{I}\text{I}\text{I}$ *の速さで早戻し再生します。見たいところや聞きたいところになったら、ボタンから手を離すと、普通の再生に戻ります。

* 早戻し $1\text{I}\text{I}\text{I}\text{I}$ /早送り $1\text{I}\text{I}\text{I}\text{I}$ の速さは、スキャン時の速度の1種類と同じです。

早送り / 早戻しをして見たいところや聞きたい ところをさがす(スキャン)

再生中に早送りするには $\text{II}\text{I}\text{I}\text{I}$ を、早戻しをするには $\text{I}\text{I}\text{I}\text{I}\text{I}$ を押します。見たいところや聞きたいところになったら、 $\text{I}\text{I}\text{I}\text{I}\text{I}$ を押して普通の再生に戻します。

スキャン中に $\text{I}\text{I}\text{I}\text{I}\text{I}$ または $\text{II}\text{I}\text{I}\text{I}\text{I}$ を繰り返し押すと、再生の速さが変わります。3種類の速さを選ぶことができます。ボタンを押すたびに次のように表示が切り換わります。

再生方向

$x2\text{I}\text{I}\text{I}$ (DVD/CDのみ) → 早送り $1\text{I}\text{I}\text{I}\text{I}$ → 早送り $2\text{I}\text{I}\text{I}\text{I}$



逆方向

$x2\text{I}\text{I}\text{I}$ (DVDのみ) → 早戻し $1\text{I}\text{I}\text{I}\text{I}$ → 早戻し $2\text{I}\text{I}\text{I}\text{I}$



$x2\text{I}\text{I}\text{I}/x2\text{I}\text{I}\text{I}$ は通常の約2倍の速度で再生します。

早戻し $1\text{I}\text{I}\text{I}\text{I}$ /早送り $1\text{I}\text{I}\text{I}\text{I}$ より、早戻し $2\text{I}\text{I}\text{I}\text{I}$ /早送り $2\text{I}\text{I}\text{I}\text{I}$ のほうが、高速で再生します。

スロー再生をして見たいところをさがす

DVD

VIDEO
CD

この機能はDVDまたはビデオCDのみで使えます。

一時停止中に $\text{I}\text{I}\text{I}\text{I}\text{I}$ または $\text{II}\text{I}\text{I}\text{I}\text{I}$ を押します。

見たいところや聞きたいところになったら、 $\text{I}\text{I}\text{I}\text{I}\text{I}$ を押すと普通の再生に戻ります。

スロー再生中、 $\text{I}\text{I}\text{I}\text{I}\text{I}$ または $\text{II}\text{I}\text{I}\text{I}\text{I}$ を繰り返し押すと、再生の速さが変わります。2種類の速さを選ぶことができます。ボタンを押すたびに次のように表示が切り換わります。

再生方向

スロー $2\text{I}\text{I}\text{I}\text{I}$ ↔ スロー $1\text{I}\text{I}\text{I}\text{I}$

逆方向(DVDのみ)

スロー $2\text{I}\text{I}\text{I}\text{I}$ ↔ スロー $1\text{I}\text{I}\text{I}\text{I}$

スロー $1\text{I}\text{I}\text{I}\text{I}$ /スロー $1\text{I}\text{I}\text{I}\text{I}$ より、スロー $2\text{I}\text{I}\text{I}\text{I}$ /スロー $2\text{I}\text{I}\text{I}\text{I}$ のほうが、低速で再生します。

コマ送り再生をする

DVD

VIDEO
CD

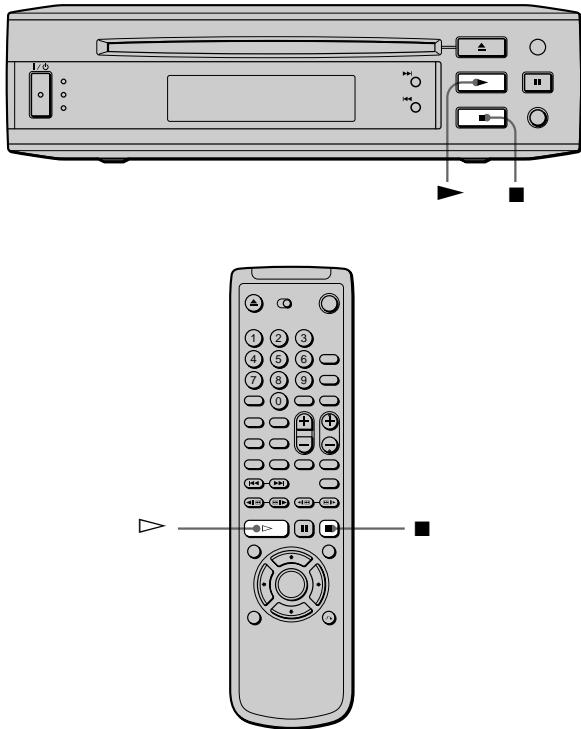
この機能はDVDまたはビデオCDのみで使えます。

一時停止中に $\text{II}\text{I}\text{I}\text{I}\text{I}$ を押し続けると、コマ送り再生します。

DVDのみ、一時停止中に $\text{I}\text{I}\text{I}\text{I}\text{I}$ を押し続けると、コマ送りで逆方向に再生します。普通の再生に戻すには、 $\text{I}\text{I}\text{I}\text{I}\text{I}$ を押します。

再生を止めたところから再生する(リジューム再生) DVD VIDEO CD CD

再生を止めたあと、表示窓に「RESUME」が表示されると、本機に再生を止めたところが記録されます。このときは、そのつづきから再生できます。ディスクを取り出さない限り、リジューム再生は電源を切っても使えます。



ご注意

- DVDによってはリジューム再生ができない場合があります。
- シャッフルまたはプログラム再生では、リジューム再生はできません。
- 再生を止めたところによっては、リジューム再生の始まりがずれることがあります。
- 次の場合、再生を止めたところの記録は消えます。
 - ディスクを取り出したとき
 - 電源コードを抜いたとき
 - リピート再生、A-Bリピート再生時にシャッフル再生またはプログラム再生の設定をしたとき
 - タイトルやチャプター、トラックを選んでから、再生を始めたとき
 - 設定画面で設定を変更したとき

再生する

1 ディスクの再生中、■を押して、再生を止める。
表示窓に「RESUME」と表示されます。また、テレビ画面には「次に再生するときは今のつづきから再生します
始めから再生するにはもういちど停止を押してください」と表示されます。

「RESUME」が表示されないと
リジューム再生はできません。

2 ▶を押す。
手順1で再生を止めたところから、再生が始まります。

💡 ディスクを最初から再生したいときは
停止中に再生時間が表示されているとき、■を押して再生時間表示を
消してから、▶を押します。

DVDのメニューを使う

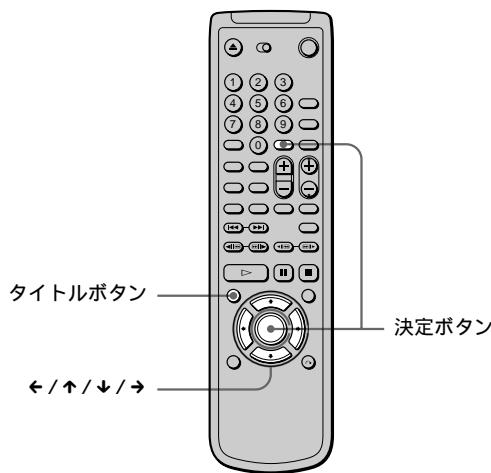


DVDには、タイトルメニューや、DVDメニューのようなDVD独自のメニューが記録されているものがあります。

再生する

タイトルメニューを使う

DVDには、複数の映像や曲が記録されたものがあります。これらの映像や曲をタイトルといいます。複数のタイトルがあるDVDを再生するときは、タイトルメニューで好きなタイトルを選べます。



1 タイトルボタンを押す。

タイトルメニューが表示されます。

タイトルの内容はディスクによって異なります。

2 再生したいタイトルを←/↑/↓/→で選ぶ。

DVDによってはリモコンの数字ボタンでタイトルを選べるものもあります。

3 決定ボタンを押す。

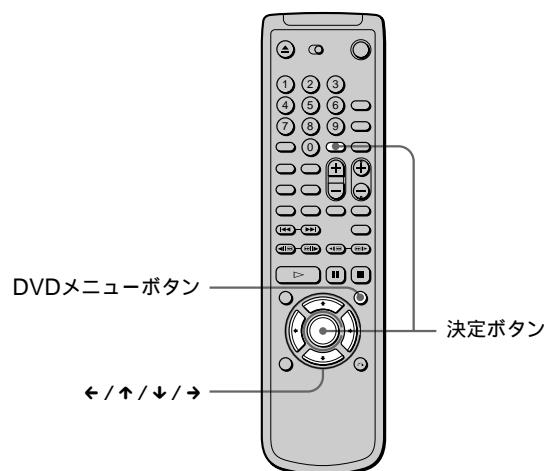
選んだタイトルの再生が始まります。

ご注意

- DVDによってはタイトルを選ぶことが禁止されている場合があります。
- DVDによっては「タイトルメニュー」のことを「メニュー」または「タイトル」と表示するものがあります。また決定ボタンを押すことを、「選択ボタンを押す」と表示するものがあります。

DVDメニューを使う

DVDには、ディスクの内容をメニューで選択できるものがあります。このようなDVDを再生するときは、再生したい項目、表示したい字幕の言語、聞きたい音声の言語などをDVDメニューで選べます。



1 DVDメニュー ボタンを押す。

DVDメニューが表示されます。DVDメニューはDVDに
より異なります。

2 選びたい項目を←/↑/↓/→で選ぶ。

DVDによってはリモコンの数字ボタンで項目を選べるも
のもあります。

3 別の項目に変更したいときは、手順2を繰り返す。

4 決定ボタンを押す。

＊ DVDメニューで表示される言語を変えるときは
設定画面の「言語設定」の「DVDメニュー言語」で変更できます。詳
しくは52ページをご覧ください。

ご注意

- DVDによっては「DVDメニュー」のことを「メニュー」と表示するものがあります。

プレイバックコントロール機能を使う(PBC再生)

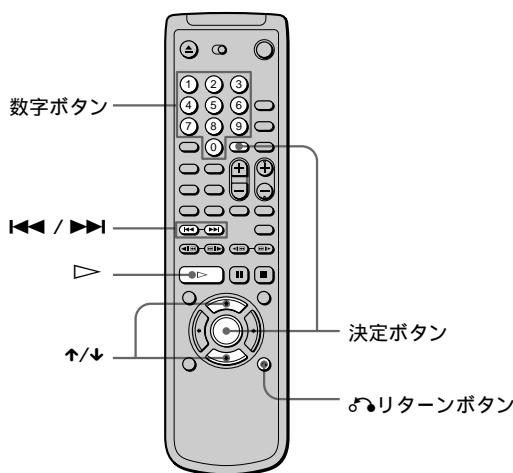


PBC対応ビデオCD(バージョン2.0)では、PBC(プレイバックコントロール)機能を使って、対話型の操作や検索などができます。

PBC再生とは、テレビ画面に表示される選択用のメニューにしたがって、再生を進めていくことです。

PBC再生で使うボタンは、数字ボタンおよび決定、◀◀、▶▶、↑/↓、♪・リターンです。

操作の方法はビデオCDによって異なることがありますので、ビデオCDに付属の説明書もあわせてご覧ください。



選択用のメニューに戻るには

♪・リターンまたは◀◀、▶▶ボタンを押す。

💡 PBC機能を使わないで再生するときは次の2つの方法があります。

- 停止中、◀◀または▶▶を押して再生したいトラックを選んでから、▷または決定ボタンを押す。
- 停止中、リモコンの数字ボタンで再生したいトラック番号を押してから、▷または決定ボタンを押す。

画面上に「PBCを切って再生します」が表示され、ふつうの再生(トラック番号順に再生)が始まります。このとき、選択用のメニューなどの静止画は再生できません。

PBC再生に戻すには、■を押して再生を止めたあと、もう1度■を押してから▷を押して再生を始めます。

ご注意

ビデオCDによっては手順3で決定ボタンを押すことを「選択ボタンを押す」と表示するものがあります。

再生する

1 「ディスクを再生する」(22ページ)の手順1から手順4を行って、PBC対応ビデオCDの再生を始める。

2 選択用のメニュー画面の中で行いたい(再生したい)項目の番号を選ぶ。

↑/↓ボタンで項目の番号を選びます。リモコンの数字ボタンで項目の番号を選ぶこともできます。

3 決定ボタンを押す。

4 テレビ画面に表示される選択用のメニュー画面などにしたがって、操作する。

表示窓の見かた



DVD

VIDEO
CD

CD

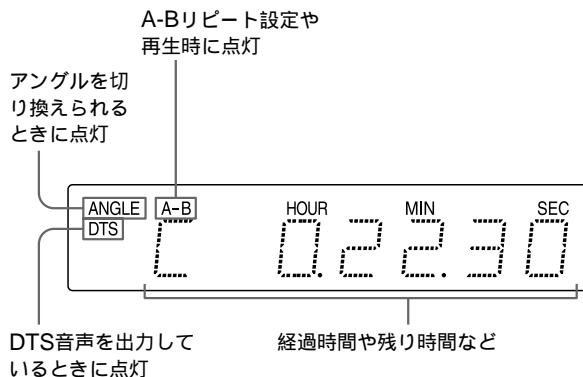
表示窓を使って、ディスクの残り時間や、DVD内の全タイトル数、CD/ビデオCDの全トラック数などを調べることができます。

再生する



DVDを再生中のとき DVD

再生中の表示窓



再生の残り時間を調べる

再生中、リモコンの時間 / テキストボタンを押す。

時間 / テキストボタンを押すたびに、表示が次のように切り換わります。

再生中のチャプターの経過時間

C 022.30 HOUR MIN SEC

再生中のチャプターの残り時間 ↓ 時間 / テキストボタンを押す

C - 01.320 HOUR MIN SEC

再生中のタイトルの経過時間 ↓ 時間 / テキストボタンを押す

T 03.24 HOUR MIN SEC

再生中のタイトルの残り時間 ↓ 時間 / テキストボタンを押す

T - 01.15.36 HOUR MIN SEC

テキスト ↓ 時間 / テキストボタンを押す

SONY HI

再生中のタイトル番号と
チャプター番号 ↓ 時間 / テキストボタンを押す

TITLE CHAP
1. 2

自動的に戻る

ご注意

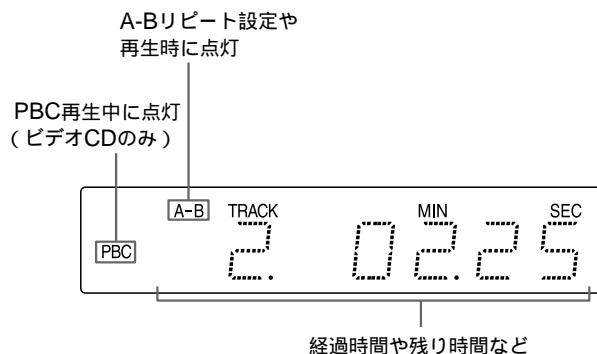
- DVDによってはチャプター番号や時間が表示されない場合や、表示窓の表示を変えられない場合があります。
- シャッフル再生またはプログラム再生をしているときは、タイトル経過時間、タイトルの残り時間は表示されません。

CD/ビデオCDを再生中のとき

VIDEO
CD

CD

再生中の表示窓



♪ ビデオCDでPBC再生しているときは

トラック番号、インデックス番号の代わりに再生中のシーン番号が表示されます。このとき時間 / テキストボタンを押しても表示は変わりません。

ディスクにCDテキストが記録されていれば、時間 / テキストボタンを押したときにCDテキストが表示窓に表示されます。CDテキストについて詳しくは、35ページをご覧ください。

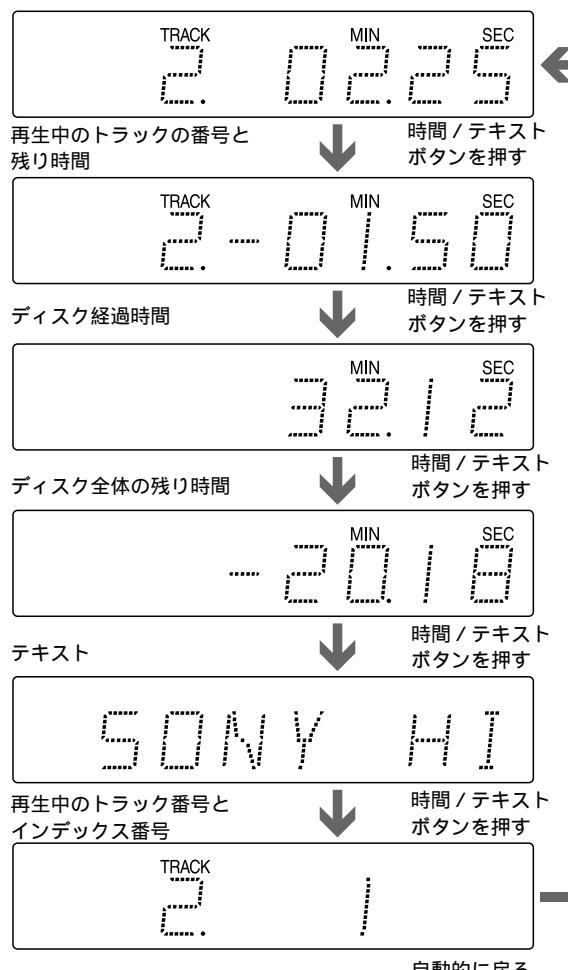
再生の残り時間を調べる

再生中、時間 / テキストボタンを押す。

時間 / テキストボタンを押すたびに、表示が次のように切り換わります。

再生する

再生中のトラック番号と経過時間



ご注意

シャッフル再生またはプログラム再生をしているときは、ディスク経過時間、ディスク全体の残り時間は表示されません。

コントロールメニューいろいろな機能を使う

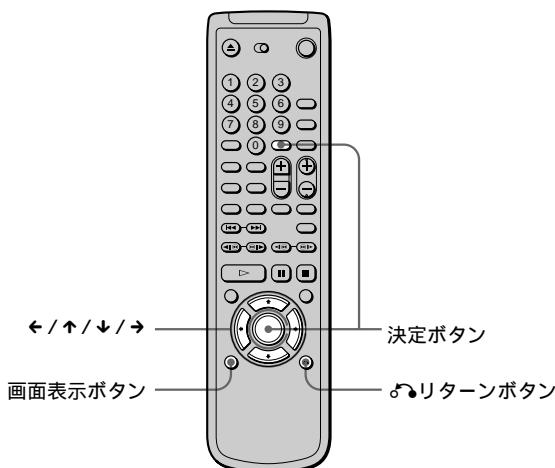
ここではコントロールメニュー画面を使つたいろいろな再生のしかたや、便利な機能の使いかたを説明します。

コントロールメニューを使う

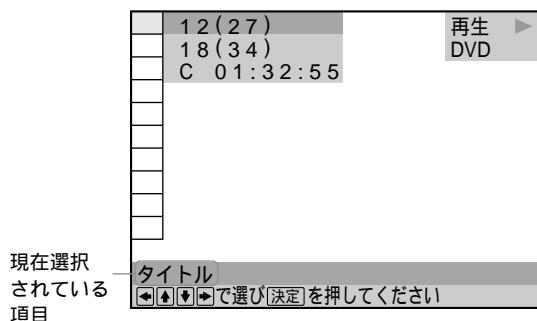


コントロールメニュー画面を使って映像や曲を探したり、好みの順で再生したり、アングルを変えたり、デジタルシネマサウンドの設定をしたりできます。

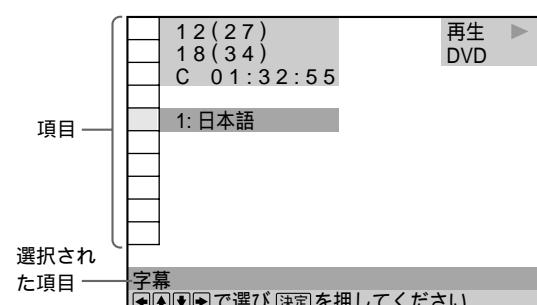
ディスクによって操作できる機能が異なります。コントロールメニューのそれぞれの項目について詳しくは、32~48ページをご覧ください。



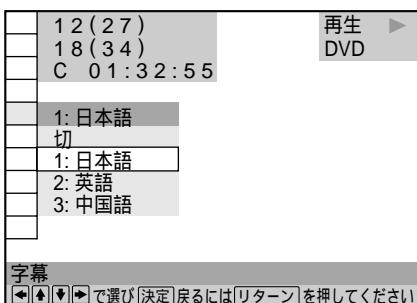
- 1 画面表示ボタンを押す。
コントロールメニュー画面が出ます。



- 2 ↑/↓ボタンを押して、希望の項目を選ぶ。



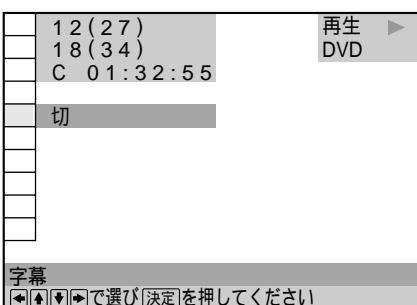
3 決定ボタンを押す。



4 ↑ / ↓ ボタンを押して、希望の項目を選ぶ。



5 決定ボタンを押す。



ひとつ前の選択画面に戻るには

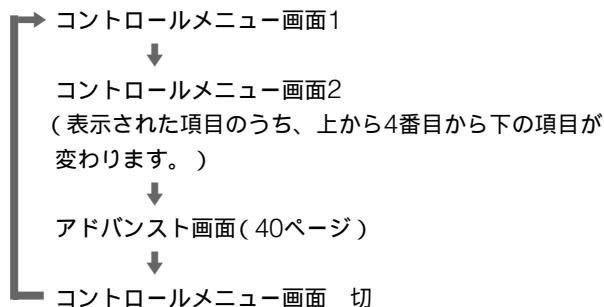
☞ リターンボタンを押します。

通常の画面に戻るには

画面表示ボタンを繰り返し押します。

他の項目を表示するには

画面表示ボタンを押すたびに、コントロールメニュー画面は次のように切り換わります。



コントロールメニュー画面の項目は、使用するディスクにより異なります。

💡 直接選べる項目もあります

いくつかの項目は、リモコンのボタンを押して、直接選ぶことができます。この場合、選んだ項目だけが表示されます。リモコンを使った操作については、それぞれの項目の説明をご覧ください。

ご注意

コントロールメニュー画面の項目には、項目を選ぶ以外の操作が必要なものもあります。このような項目について詳しくは、次ページからの説明をご覧ください。

コントロールメニュー画面項目一覧



タイトル(DVDのみ)(33ページ) /
シーン(PBC再生時のビデオCDのみ)(33ページ) /
トラック(ビデオCDのみ)(33ページ)



チャプター(DVDのみ)(33ページ) /
インデックス(ビデオCDのみ)(33ページ)



トラック(CDのみ)(33ページ)



インデックス(CDのみ)(33ページ)

タイトル、チャプター、トラック、インデックス、シーンを選んで映像や曲を探すことができます。



時間 / テキスト(34、35ページ)

再生中のタイトル、チャプター、トラックおよびディスク全体の経過時間および残り時間を調べることができます。
タイムコードを入力して映像や曲を探すことができます。
ディスクに記録されたDVDテキストやCDテキストを表示窓やテレビ画面で見ることができます。



音声(36ページ)

DVDの中には、複数の言語(マルチランゲージ)で音声が記録されているものがあります。このようなDVDでは、再生中に好きな言語の音声に切り換えられます。また、音声が複数の記録方式(PCMまたはドルビーデジタル、DTS)で記録されているDVDでは、再生中に音声記録方式を選ぶことができます。CDまたはビデオCDでは、左右どちらかのチャンネルの音を選び、左右両方のスピーカーからその選んだ音を聞くことができます。



字幕(DVDのみ)(37ページ)

DVDの中には、字幕が記録されているものがあります。この字幕は、再生中の好きなときに表示したり消したりできます。またDVDに複数の言語で字幕が記録されているときは、再生中の好きなときに切り換えられます。



アングル(DVDのみ)(38ページ)

DVDの中には、同じ場面が複数のアングルで記録されているもの(マルチアングル)があります。このようなDVDでは、再生中、複数のアングルが記録されている部分であれば好きなアングルに切り換えながら見ることができます。



VES(DVDのみ)(39ページ)

ドルビーデジタルサラウンドなどのマルチチャンネルのサラウンド音声を楽しむことができます。
フロントスピーカーしかつないでいるときでも、バーチャルエンハンストサラウンド(VES)機能で、ステレオ信号を3D立体音像処理することにより、仮想サラウンドをお楽しみいただけます。



アドバンスト(DVDのみ)(40ページ)

ピットレートや再生中のディスクが読んでいる位置(レイヤー)についての情報を見ることができます。



カスタム視聴制限(41ページ)

暗証番号を登録することにより、ディスクごとに本機での再生を禁止することができます。
視聴年齢制限(54ページ)とカスタム視聴制限は同じ暗証番号を使います。



設定(49ページ)

設定画面を使って、初期設定や画質や音質の調整、さまざまな出力の設定などことができます。またDVDを再生するときの、字幕の言語やメニューの表示言語、視聴年齢制限の設定などもできます。設定画面の項目の詳しい内容は51~59ページをご覧ください。



プログラム(43、44ページ)

タイトルやチャプター、トラックを選んで好きな順に再生できます。



シャッフル(45ページ)

ディスク上のタイトル番号やトラック番号に関係なく、本機がランダム(無作為)に順番を選んで、ひとり通り再生します。再生する順番は、選ぶたびに変わります。



リピート(46ページ)

ディスク全体(全タイトル / 全トラック)または1つのタイトル / チャプター / トラックだけを繰り返し再生できます。



A-Bリピート(47、48ページ)

再生したい部分を指定して、繰り返し再生できます。

再生するタイトル / チャプター / トラック / インデックス / シーンを選ぶ



タイトルまたはチャプター、トラック、インデックス、シーンを選んで映像や曲を探すことができます。

画面表示ボタンを押したあと、「タイトル」または「チャプター」、「トラック」、「インデックス」、「シーン」を選びます。

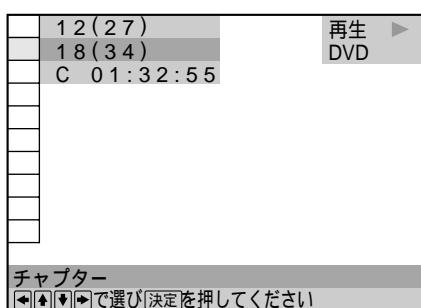
DVDを再生しているときは、「タイトル」と「チャプター」が表示されます。

ビデオCD/CDを再生しているときは、「トラック」と「インデックス」が表示されます。ビデオCDでPBC再生をしているときは、「シーン」が表示されます。



1 ↑/↓で「タイトル」または「チャプター」、「トラック」、「インデックス」、「シーン」を選ぶ。

「* * (* *)」が選ばれます（* *は任意の数字）。かっこ内の数字はタイトルまたはチャプター、トラック、インデックス、シーンの総数です。



2 →または決定ボタンを押す。

「* * (* *)」が「- - (* *)」に変わります。



3 数字ボタンでタイトルまたはチャプター、トラック、インデックス、シーンの数字を選んで、決定ボタンを押す。

選んだ場所の再生が始まります。入力した数字を訂正するときは決定ボタンを押す前にクリアボタンを押してください。

選択を途中でやめるには

⑤リターンボタンを押します。

ご注意

- 表示されるタイトル、チャプター、トラックの数字はディスクに記録されているタイトル、チャプター、トラックの数字です。
- ビデオCDのPBC再生中はインデックスの数字は表示されません。

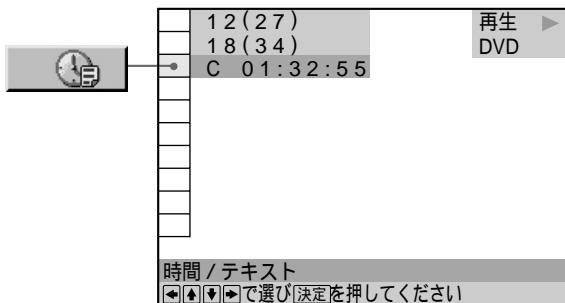
経過時間と残り時間を見る



再生中のタイトル、チャプター、トラックの経過時間と残り時間、ディスク全体の経過時間と残り時間を見られます。

画面表示ボタンを押します。その後、リモコンの時間 / テキストボタンを押して、時間表示を切り替えます。
DVDテキストやCDテキストを見ることもできます。35ページをご覧ください。

コントロールメニューでいろいろな機能を使う



DVDを再生中

時間/テキスト

- C * * : * * : * * : 再生中のチャプターの経過時間
- C - * * : * * : * * : 再生中のチャプターの残り時間
- T * * : * * : * * : 再生中のタイトルの経過時間
- T - * * : * * : * * : 再生中のタイトルの残り時間

ビデオCDをPBC再生中

時間/テキスト

- * * : * * : 再生中のシーンの経過時間

ビデオCD(PBC再生中を除く)がCDを再生中

時間/テキスト

- T * * : * * : 再生中のトラックの経過時間
- T - * * : * * : 再生中のトラックの残り時間
- D * * : * * : 再生中のディスクの経過時間
- D - * * : * * : 再生中のディスクの残り時間

💡「時間/テキスト」を直接選べます

リモコンの時間 / テキストボタンを押します。ボタンを押すたびに時間表示が変わります。

ご注意

再生の状態によっては表示される時間が変わります。

タイムコードを使って場面を探す



タイムコードを入力して場面を探すことができます。

画面表示ボタンを押したあと、「時間/テキスト」を選びます。

タイムコードはおよそ実際の経過時間に対応しています。例えば、始まりから2時間10分20秒過ぎた場面を探すには2:10:20と入力します。

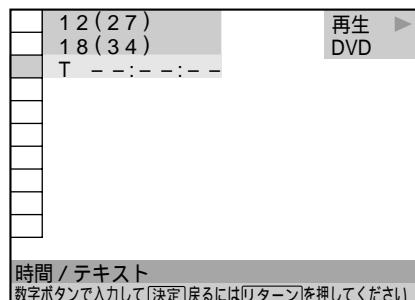


- 1 DVDを再生中に「C * * : * * : * *」(再生中のチャプターの経過時間)を選ぶ。



- 2 →または決定ボタンを押す。

タイムコードが「T - - : - - : - -」に変わる。



- 3 数字ボタンを使ってタイムコードを入力し、決定ボタンを押す。

選んだ場所の再生が始まります。

入力した数字を訂正するときは決定ボタンを押す前にクリアボタンを押してください。

ディスクの情報を見る



DVD

VIDEO
CD

CD

入力を途中でやめるには

♪ リターンボタンを押します。

ご注意

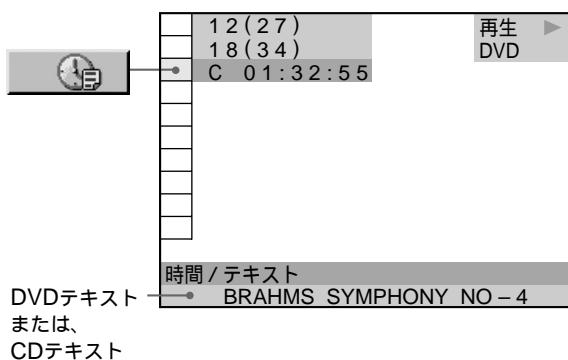
タイムコードを入力するときは、タイトルの経過時間を入力してください。

ディスクに記録されたDVDテキストやCDテキストを、表示窓やテレビ画面で見ることができます。

DVDテキストやCDテキストは、ディスクに記録されている情報なので変更することはできません。

画面表示ボタンを押します。その後、DVDテキストかCDテキストが表示されるまでリモコンの時間／テキストボタンを押します。

情報はテレビ画面の一番下に表示されます。



「時間/テキスト」を直接選べます

リモコンの時間／テキストボタンを押します。DVDテキストやCDテキストの情報を表示するには、情報が表示されるまで繰り返し時間／テキストボタンを押します。

DVDテキストやCDテキストの全情報を見られます
表示窓に、DVDまたはCDテキストがスクロールして表示されます。

ご注意

- 英語のテキストのみ表示できます。
- DVDまたはCDテキストが記録されていないディスクのときは、「NO TEXT」と表示されます。
- 本機では、DVDまたはCDテキストの先頭の情報(タイトルなど)のみを表示します。
- DVDまたはCDテキストを表示すると、操作ガイドは表示されません。

音声を切り換える



DVD

VIDEO
CD

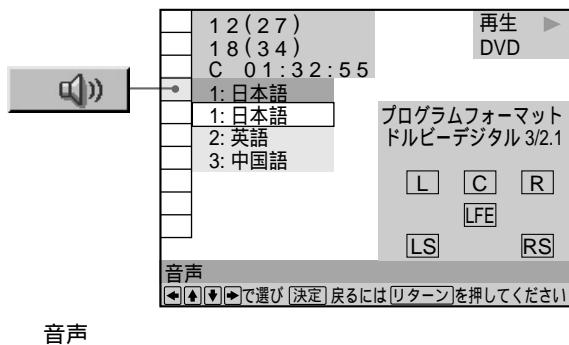
CD

コントロールメニューでいろいろな機能を使う

DVDに、複数の言語(マルチランゲージ)で音声が記録されているときは、再生中に好きな言語の音声に切り替えられます。また、複数の音声記録方式(PCMまたはドルビーデジタル、DTS)が記録されているDVDでは、再生中に音声記録方式を選ぶことができます。

複数の音声トラックが記録されたCDまたはビデオCDでは、左右どちらかのチャンネルの音を選び、左右両方のスピーカーから選んだ音を聞くことができます。このときの音声はモノラルになります。例えばカラオケのビデオCDなどでは、音声チャンネルを切り換えることで、ボーカルのトラックを消し、伴奏だけを楽しめるものもあります。

画面表示ボタンを押したあと、「音声」を選びます。



DVDを再生中

言語を選びます。選べる言語はDVDによって異なります。4桁の数字が表示されたときは、言語コードを意味しています。「言語コード一覧表」(70ページ)を参照して選んでください。同じ言語が2個以上あるときは、音声記録方式(チャンネル数など)が異なります。現在選ばれている音声記録方式は、「プログラムフォーマット」に表示されます。

ビデオCDまたはCDを再生中

お買い上げ時は、下線の付いている項目に設定されています。

- ステレオ：通常のステレオ再生
- 1/L：左チャンネルの音(モノラル)
- 2/R：右チャンネルの音(モノラル)

「音声」を直接選べます

リモコンの音声ボタンを押します。ボタンを押すたびに項目が変わります。

ご注意

- 「オーディオ設定」で「DTS」が「切」になっていると、ディスクにDTSの音声が記録されていても、画面に表示されません。
- DVDによっては複数の言語が記録されていても、切り替えが禁止されている場合があります。
- CD/ビデオCDでは、次の場合に通常のステレオ再生に戻ります。
 - ディスクを取り出したとき
 - リモコンの電源ボタンまたは本体のI/O(電源)ボタンを押して、電源を切ったとき
- DVD再生中、次の場合に音声が切り換わることがあります。
 - ディスクを取り出したとき
 - タイトルを変えたとき

再生しているチャンネルを表示する DVD

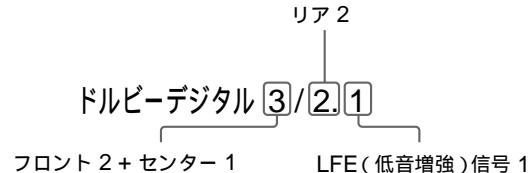
「音声」を選ぶと、現在再生中のDVDに記録されているチャンネル数を表示することができます。

ドルビーデジタル方式では、モノラルから5.1chまでの信号がDVDに記録できます。記録されているチャンネル数はDVDにより異なります。



*「PCM」または「DTS」「ドルビーデジタル」が表示されます。「ドルビーデジタル」のときは音声の含まれるチャンネルが下記のように数字で表示されます。

ドルビーデジタル5.1chの場合：

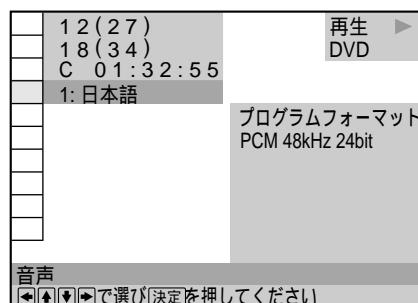


**チャンネル表示はスピーカーの有無にかかわらず、再生中のトラックに記録されている信号を表します。各記号は次のチャンネルを表しています。

- L：フロント(左)
- R：フロント(右)
- C：センター(モノラル)
- LS：リア(左)
- RS：リア(右)
- S：リア(モノラル)：ドルビーサラウンド処理された2ch信号または、ドルビーデジタル信号のリア成分です。
- LFE：LFE (Low Frequency Effect: 低音増強)信号

画面表示の例

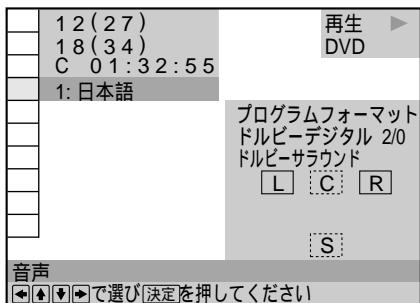
- PCM(ステレオ)のとき



字幕を表示する

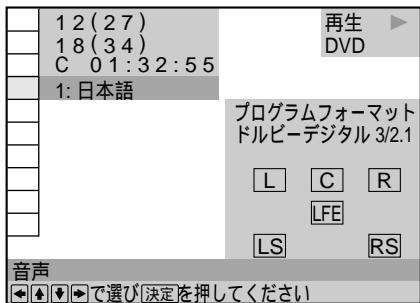


- ドルビーサラウンドのとき



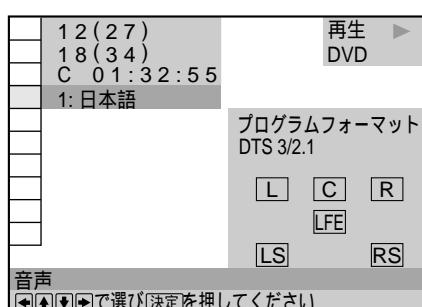
- ドルビーデジタル5.1チャンネルのとき

ディスクにLFE信号が記録されているときのみ「LFE」が実線で表示されます。LFE信号が出力されていないときもプログラムフォーマットには、「LFE」が表示されます。



- DTSのとき

LFE(低音増強)信号出力の有無にかかわらずLFEが実線で表示されます。



ご注意

LS、RS、Sのようなリア信号を含んでいないときは、VESの効果をかけて聞くことはできません(39ページ)。

DVDの中には、字幕が記録されているものがあります。

字幕は再生中であれば、好きなときに表示したり消したりできます。また、DVDに複数の言語で字幕が記録されているときは、再生中の好きなときに切り換えられます。例えば、字幕を表示して、語学の学習に役立てたりすることができます。

画面表示ボタンを押したあと、「字幕」を選びます。



字幕

言語を選びます。選べる言語はDVDによって異なります。4桁の数字が表示されたときは言語コードを意味しています。「言語コード一覧表」(70ページ)を参照して選んでください。

「字幕」を直接選べます

リモコンの字幕ボタンを押します。ボタンを押すたびに項目が切り換わります。

ご注意

- 字幕が記録されていないディスクでは、字幕を表示することはできません。
- DVDによっては字幕が記録されても、字幕表示を禁止しているものがあります。
- DVDによっては、字幕を消すことを禁止している場合があります。
- 記録されている字幕の言語の種類や数はDVDによって異なります。
- DVDによっては複数の字幕が記録されても、切り替えを禁止している場合があります。
- DVD再生中、次の場合に字幕が切り換わることがあります。
 - ディスクを取り出したとき
 - タイトルを変えたとき

アングルを切り換える

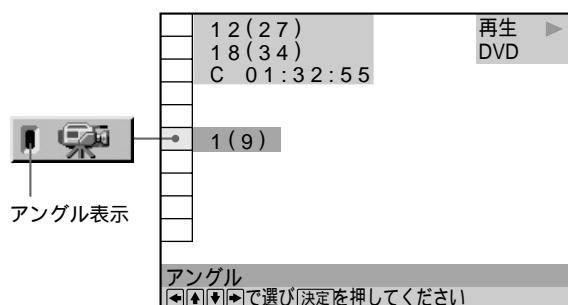


DVD

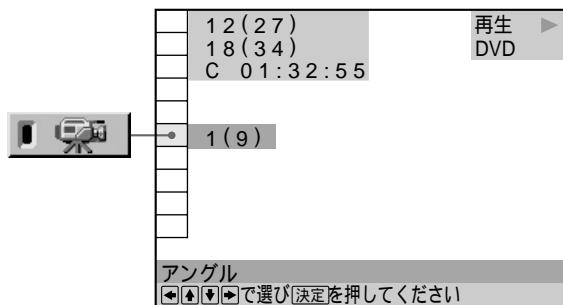
DVDの中には、同じ場面が複数のアングルで記録されているもの（マルチアングル）があります。このようなDVDでは、再生中、複数のアングルが記録されている部分で好きなアングルに切り換えながら見ることができます。

例えば、動いている電車のシーンの再生中に、電車の正面から見ていた景色を、左の窓や右の窓からの景色に、電車の動きを止めることなく切り換えて見ることができます。

画面表示ボタンを押したあと、「アングル」を選びます。アングルを変えられるときはアングル表示が緑に点灯します。

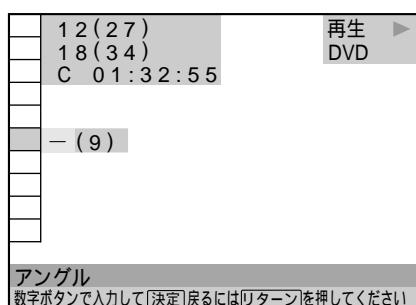


1 「アングル」を選ぶ。



2 →を押す。

アングル番号が「 - 」に変わります。かっこ内の数字はアングルの総数を示します。



3 数字ボタンまたは↑ / ↓を使ってアングル番号を選び、決定ボタンを押す。

選んだアングルに切り換わります。



♪ 「アングル」を直接選べます

リモコンのアングルボタンを押します。ボタンを押すたびにアングルが切り換わります。

ご注意

- 切り換えられるアングルの数は、DVDによっても、場面によっても異なります。DVDのその場面に記録されているアングルの数だけ切り換えることができます。
- DVDによっては複数のアングルが記録されていても、切り換えを禁止している場合があります。

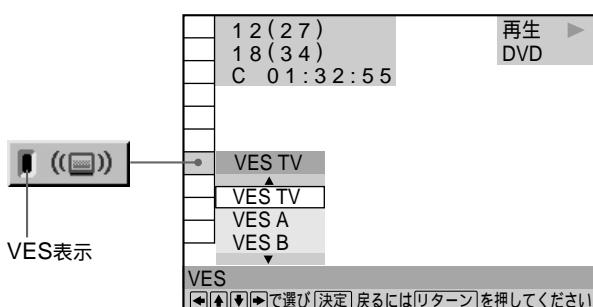
デジタルシネマサウンドの設定をする DVD

ドルビーデジタルで、マルチチャンネルのサラウンド音声を楽しむことができます。

ステレオテレビのスピーカーやフロントスピーカーだけをつないでいるとき、または2+1チャンネル接続しているとき、バーチャル エンハンスト サラウンド (VES)機能で、ステレオ信号を3D立体音像処理することにより、リアスピーカーがなくても仮想サラウンドが楽しめます。

VESを設定すると、設定画面の「オーディオ設定」で「ドルビーデジタル」を「ダウンミックスPCM」にしている場合、ドルビーデジタル信号はDIGITAL OUT (OPTICAL)端子から出力されません(58ページ)。

画面表示ボタンを押したあと、「VES」を選びます。「切」以外の項目を選んでいるときは、VES表示が緑に点灯します。



VES

希望の項目を選びます。それぞれの項目について詳しくは、「各項目について」をご覧ください。

お買い上げ時は、下線の付いている項目に設定されています。

- 切
- VES TV
- VES A
- VES B
- VIRTUAL SEMI MULTI DIMENSION

各項目について

切

2チャンネルのステレオの信号をフロントスピーカーから出力します。DVDに記録されている5チャンネルのドルビーデジタル音声は、2チャンネルに変換されて出力されます。

バーチャル エンハンスト サラウンド
VES (Virtual Enhanced Surround) TV

3D立体音像処理により、実在するフロントスピーカー(L、R)の音から、1組の仮想リアスピーカーを再現します。ステレオスピーカー内蔵テレビのように、左右のフロントスピーカーの距離が近いときに効果的です。



バーチャル エンハンスト サラウンド
VES (Virtual Enhanced Surround) A

3D立体音像処理により、実在するフロントスピーカー(L、R)の音から、3組の仮想スピーカーを下図のように再現します。



バーチャル エンハンスト サラウンド
VES (Virtual Enhanced Surround) B

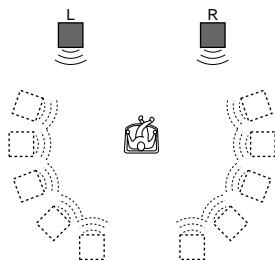
3D立体音像処理により、実在するフロントスピーカー(L、R)の音から、1組の仮想スピーカーを下図のように再現します。



デジタルシネマサウンドの設定をする

バーチャル セミ マルチ ディメンション VIRTUAL SEMI MULTI DIMENSION

3D立体音像処理により、フロントスピーカー(L、R)のみで仮想リアスピーカーを再現します。5組の仮想スピーカーは、リスニングポジションから約30°の高さで下の図のように再現します。



「VES」を直接選べます

リモコンまたは本体のVESボタンを押します。ボタンを押すたびに項目が切り換わります。

ご注意

- ・項目を選んだときは一瞬音が途切れます。
- ・「VES TV」または「VES A」、「VES B」、「VIRTUAL SEMI MULTI DIMENSION」では再生する信号にサラウンド成分が含まれていない場合、効果が得られません。
- ・両方のフロントスピーカーがリスニングポジションから同じ距離に設置されていないときは、「VES A」または「VES B」、「VIRTUAL SEMI MULTI DIMENSION」を選んでも効果がわかりにくいことがあります。
- ・「VES TV」または「VES A」、「VES B」、「VIRTUAL SEMI MULTI DIMENSION」を選んでいるときは、つないでいる機器(アンプなど)のサラウンドの設定は「切」にしてください。

再生の情報を見る

ピットレートまたは、ディスクのレイヤーおよび光ピックアップの位置についての情報を見ることができます。

再生中、映像のおよそのピットレートがMbps(Mega bit per second)で、音声のおよそのピットレートがkbps(kilo bit per second)で表示されます。

画面表示ボタンを押したあと、「アドバンスト」を選びます。



アドバンスト

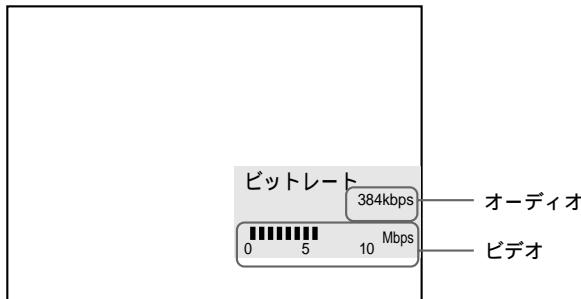
お買い上げ時は、下線の付いている項目に設定されています。

- ・ピットレート：ピットレートを表示する。
- ・レイヤー：レイヤーおよび光ピックアップのおよその位置を表示する。
- ・消：アドバンスト画面を消す。

各項目の表示

画面表示ボタンを繰り返し押すと、アドバンストで選んだ「ビットレート」または「レイヤー」が表示されます。

ビットレート



ビットレートはDVDに圧縮して記録されている画像や音声の、1秒あたりの情報量を示す値です。画像の場合、単位はMbps(Mega bit per second)で、1Mbpsは1秒あたりの情報量が1,000,000ビットであることを表します。音声の場合、単位はkbps(kilo bit per second)です。

この値が大きいほど画像や音声の情報量は多くなりますが、必ずしも画質や音質とは直接関係しません。

レイヤー



2層DVDの場合のみ表示

再生中、光ピックアップのおよその位置を示します。
2層のDVDではどちらのレイヤーが読まれているかも示します（「Layer 0」または「Layer 1」）。
レイヤーについて詳しくは、68ページのDVDの項目をご覧ください。

ディスクを制限する(カスタム視聴制限)



登録した暗証番号を使って、ディスクごとに本機での再生を禁止することができます。

登録した同じ暗証番号で、50枚までのディスクにカスタム視聴制限を設定することができます。51枚目のディスクを設定すると、1番最初に設定したディスクの制限が解除されます。

視聴年齢制限(54ページ)でも、カスタム視聴制限と同じ暗証番号を使います。

画面表示ボタンを押して、「カスタム視聴制限」を選びます。

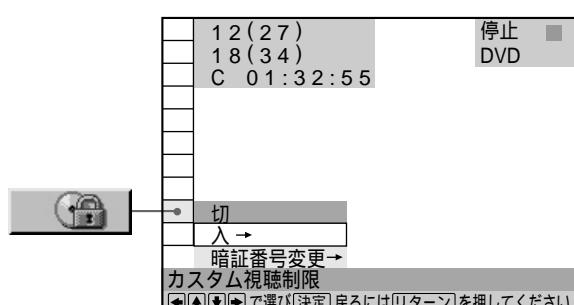


ディスクにカスタム視聴制限を設定する

1 設定したいディスクを入れる。

ディスクを再生しているときは、■を押して再生を止めます。

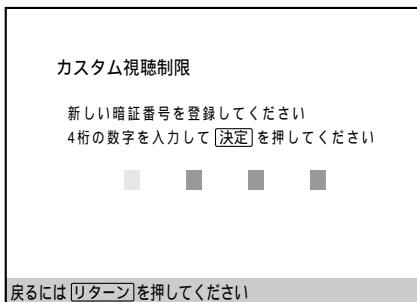
2 ↑/↓で「カスタム視聴制限」を選んで、決定ボタンを押す。



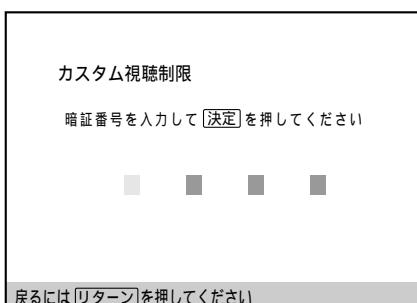
ディスクを制限する(カスタム視聴制限)

3 ↑/↓で「入」を選んで、決定ボタンを押す。

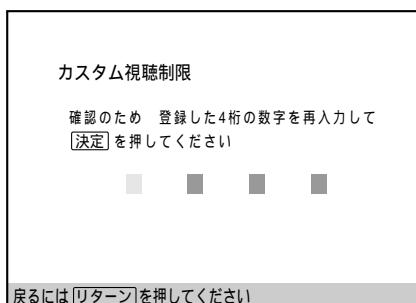
暗証番号が登録されていないとき
暗証番号入力の画面が表示されます。



暗証番号がすでに登録されているとき
暗証番号確認の画面が出ます。手順4をとばして手順5に進みます。



4 4桁の暗証番号を数字ボタンで入力し、決定ボタンを押す。
決定ボタンを押すと数字は「*」に変わり、暗証番号確認の画面になります。



5 暗証番号を数字ボタンで入力し、決定ボタンを押す。
「カスタム視聴制限を設定しました」と表示され、コントロールメニューの画面に戻ります。

設定を途中でやめるには
リターンボタンを押します。

カスタム視聴年齢制限を解除するときは

- 1 ↑/↓で「カスタム視聴制限」を選んで、決定ボタンを押す。
- 2 ↑/↓で「切」を選んで、決定ボタンを押す。
- 3 4桁の暗証番号を数字ボタンで入力し、決定ボタンを押す。

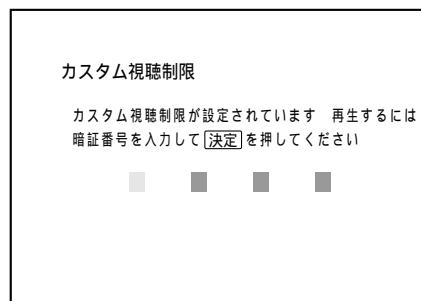
暗証番号を変更したいときは

- 1 ↑/↓で「カスタム視聴制限」を選んで、決定ボタンを押す。
- 2 ↑/↓で「暗証番号変更」を選んで、決定ボタンを押す。
- 3 4桁の暗証番号を数字ボタンで入力し、決定ボタンを押す。
暗証番号変更の画面が表示されます。
- 4 新しい4桁の暗証番号を数字ボタンで入力し、決定ボタンを押す。
- 5 確認のため、暗証番号を数字ボタンでもう1度入力し、決定ボタンを押す。

カスタム視聴制限が設定されているディスクを再生する

1 ディスクを入れる。

カスタム視聴制限の画面が表示されます。



2 4桁の暗証番号を数字ボタンで入力し、決定ボタンを押す。
再生が始まります。

暗証番号を忘ってしまったときは

カスタム視聴制限画面で、暗証番号を入力する案内が表示されているとき、6桁の数字「199703」を入力します。画面に、新しい4桁の暗証番号を入力する案内が表示されます。

ご注意

カスタム視聴制限が設定されたディスクは、暗証番号を入力しないと再生することはできません。暗証番号がわからない場合は、合ボタンを押してディスクを取り出してください。

好きな順に再生する(プログラム再生)



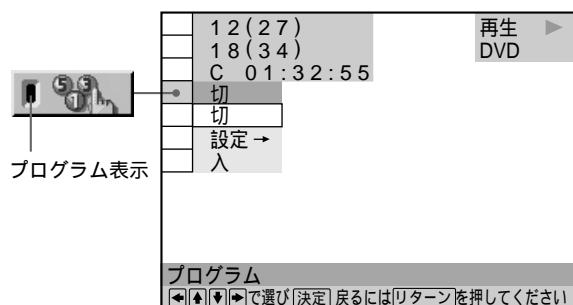
DVD

VIDEO CD

CD

タイトルやチャプター、トラックを好きな順に選んでプログラムを作り、再生できます。最大99個のタイトルやチャプター、トラックがプログラムできます。

画面表示ボタンを押したあと、「プログラム」を選びます。
「入」を選んでいるときはプログラム表示が緑に点灯します。



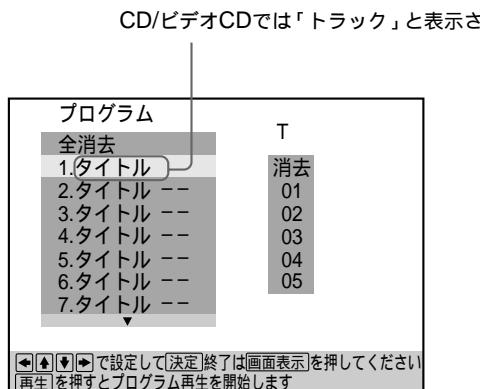
プログラム

- お買い上げ時は、下線の付いている項目に設定されています。
- 切：ふつうの再生。
 - 設定→：プログラムを設定する。
 - 入：プログラム再生。

プログラムを設定する

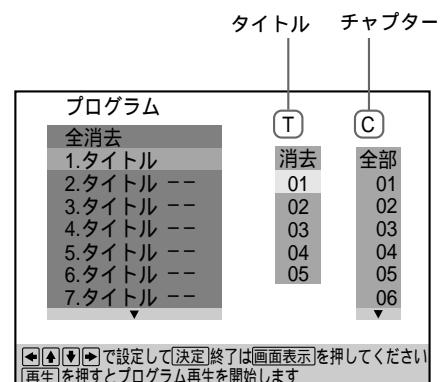
1 「プログラム」の「設定→」を選ぶ。

プログラム設定画面が表示されます。



2 →を押す。

タイトルまたはトラック「01」が選ばれます。プログラムの最初のタイトルまたはトラックを設定します。

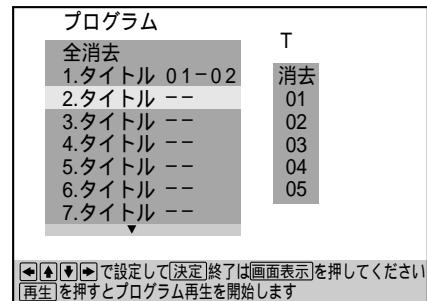
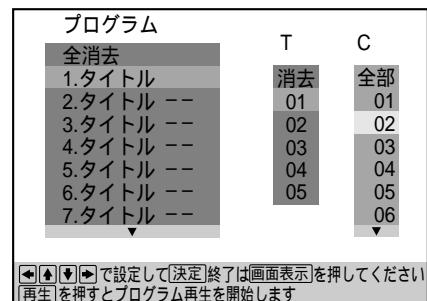


3 ↑/↓でプログラム再生したいタイトル/チャプター/トラックを選んで、決定ボタンを押す。

例えばタイトルまたはトラック「02」を選びます。(数字ボタンで選び、決定ボタンを押して選択することもできます。このとき選択した番号が画面に表示されます。)

DVDのとき

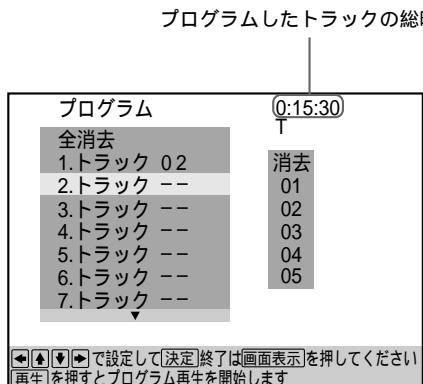
タイトルとチャプターの両方が記録されている場合は、タイトルを選んでから、チャプターを選択する。



好きな順に再生する(プログラム再生)

CD/ビデオCDのとき

ディスクに記録されているトラックの中から再生するトラックを選ぶ。



4 他に再生するタイトル/チャプター/トラックを設定したいときは、手順3を繰り返す。

設定したタイトル/チャプター/トラックが選んだ順に表示されます。

5 ▶を押す。

プログラム再生が始まります。

プログラム再生をやめるときは

リモコンのクリアボタンを押します。

なお、シャッフル再生やリピート再生が設定されているときは、それらもすべて解除されます。

プログラムの設定を変更するときは

1 手順2で、↑/↓を使って変更したいタイトル、チャプター、トラックのプログラム番号を選ぶ。

2 手順3の操作で新しい設定を入力する。

設定したプログラムを消すには

すべて消すときは、手順2で「全消去」を選びます。ひとつずつ消すときは、手順2で↑/↓を使って消したいプログラムを選んでクリアボタンを押すか、手順3で「消去」を選んだあと、決定ボタンを押します。

💡 プログラム再生が終わっても、プログラムは残っています
▶を押すと、同じプログラムをもう1度再生します。

💡 設定したプログラムで「リピート再生」や「シャッフル再生」もできます

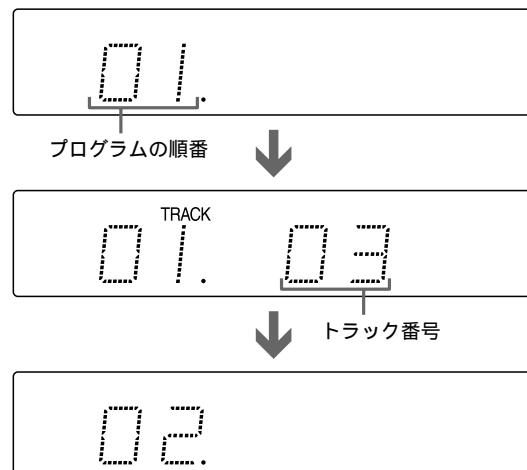
プログラムを再生中に、コントロールメニュー画面の「リピート」または「シャッフル」を「入」にしてください。

💡 「プログラム」を直接選べます
リモコンのプログラムボタンを押します。

💡 本体の表示窓を見ながらプログラム設定したいタイトルまたはチャプター、トラックを選ぶことができます

テレビ画面のプログラム画面のかわりに、本体の表示窓を見ながらプログラム設定することもできます。

例えば、プログラム1にビデオCDのトラック3を設定したときは、下記のように表示窓に表示されます。



ご注意

- タイトル/チャプター/トラックはディスクに記録されている数だけ画面に表示されます。
- 設定したプログラムは、次の場合に解除されます。
 - ディスクを取り出したとき
 - リモコンの電源ボタンまたは本体のI/O(電源)ボタンを押して、電源を切ったとき
- DVDによってはプログラム再生ができない場合があります。
- ビデオCDのPBC再生時は、再生を止めてからプログラムを設定してください。

順不同に再生する(シャッフル再生)



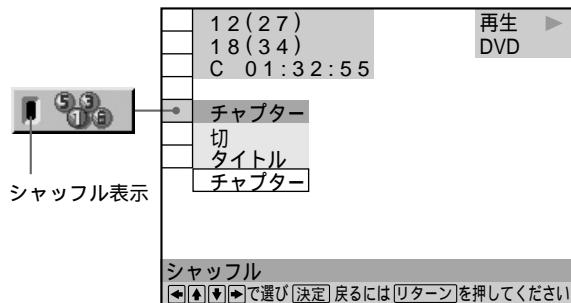
DVD

VIDEO CD

CD

ディスク上のタイトル番号やトラック番号に関係なく、本機が自動的に順番を選んで、ひと通り再生します。再生する順番は、「シャッフル」を選ぶたびに変わります。

画面表示ボタンを押したあと、「シャッフル」を選びます。
「切」以外の項目を選んでいるときはシャッフル表示が緑に点灯します。



● 停止中でもシャッフル再生の設定ができます
「シャッフル」で項目を選んで▷ボタンを押します。
シャッフル再生が始まります。

● 「シャッフル」を直接選べます
リモコンのシャッフルボタンを押します。ボタンを押すたびに項目が切り換わります。

ご注意

- シャッフル再生は、次の場合に解除されます。
 - ディスクを取り出したとき
 - リモコンの電源ボタンまたは本体のI/O(電源)ボタンを押して、電源を切ったとき
- DVDによってはシャッフル再生ができない場合があります。
- 「チャプター」を選んだとき、ディスク中の200のチャプターまでシャッフル再生できます。
- ビデオCDのPBC再生時は、再生を止めてからシャッフル再生を設定してください。

シャッフル

シャッフル再生の設定を選びます。
お買い上げ時は、下線の付いている項目に設定されています。

DVDで「プログラム」を「切」にして再生するとき

- 切：シャッフル再生しません。
- タイトル：タイトルを順不同にして再生します。
- チャプター：チャプターを順不同にして再生します。

ビデオCDまたはCDで「プログラム」を「切」にして再生するとき

- 切：シャッフル再生しません。
- トラック：トラックを順不同にして再生します。

ビデオCDまたはCD、DVDで「プログラム」を「入」にして再生するとき

- 切：シャッフル再生しません。
- 入：タイトルまたはトラックをプログラム番号ごとに順不同にして再生します。

シャッフル再生をやめるときは

リモコンのクリアボタンを押します。
このとき、プログラム再生やリピート再生の設定も同時に解除されます。

繰り返し再生する(リピート再生)



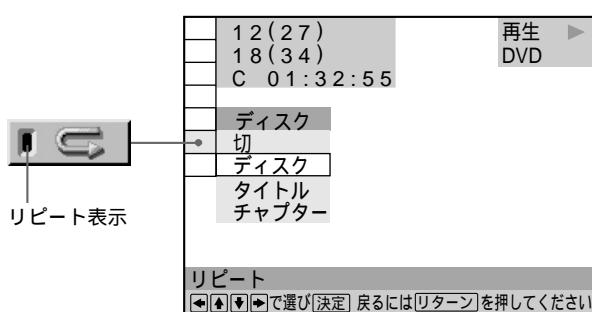
DVD

VIDEO CD

CD

ディスクのすべてのタイトルまたはトラック、または1つのタイトル/チャプター/トラックを繰り返し再生できます。シャッフル再生やプログラム再生と組み合わせると、シャッフル再生やプログラム再生での順番で繰り返し再生します。ビデオCDのPBC再生(27ページ)では、リピート再生できません。

画面表示ボタンを押したあと、「リピート」を選びます。「切」以外の項目を選んでいるときはリピート表示が緑に点灯します。



リピート

リピート再生の設定を選びます。
お買い上げ時は、下線の付いている項目に設定されています。

DVDで「プログラム」と「シャッフル」を「切」にして再生するとき

- 切：リピート再生しません。
- ディスク：すべてのタイトルを繰り返し再生します。
- タイトル：再生中のタイトルを繰り返し再生します。
- チャプター：再生中のチャプターを繰り返し再生します。

ビデオCDまたはCDで「プログラム」および「シャッフル」を「切」にして再生するとき

- 切：リピート再生しません。
- ディスク：すべてのトラックを繰り返し再生します。
- トラック：再生中のトラックを繰り返し再生します。

ビデオCDまたはCD、DVDで「プログラム」または「シャッフル」を「切」以外にして再生するとき

- 切：リピート再生しません。
- 入：プログラム再生、シャッフル再生を繰り返し再生します。

リピート再生をやめるときは

リモコンのクリアボタンを押します。
このとき、プログラム再生やシャッフル再生の設定も同時に解除されます。

♪ 停止中でもリピート再生の設定ができます
「リピート」で項目を選んで▷ボタンを押します。
リピート再生が始まります。

♪ 「リピート」を直接選べます
リモコンのくり返しボタンを押します。

ご注意

- リピート再生は、以下の場合に解除されます。
 - ディスクを取り出したとき
 - リモコンの電源ボタンまたは本体のI/Off(電源)ボタンを押して、電源を切ったとき
- DVDによってはリピート再生ができない場合があります。

再生したい部分だけを繰り返す(A-Bリピート)



DVD

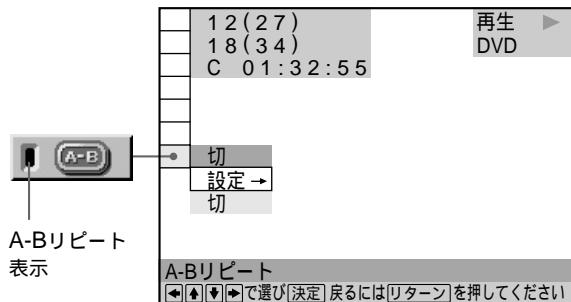
VIDEO CD

CD

再生したい部分を指定して、繰り返し再生できます。語学学習や歌詞を覚えるときに便利です。

ビデオCDのPBC再生(27ページ)では、動画の再生中にだけできる操作です。

画面表示ボタンを押したあと、「A-B リピート」を選びます。A-Bリピート中はA-B リピート表示が緑に点灯します。



A-B リピート

お買い上げ時は、下線の付いている項目に設定されています。

- 設定→ : 繰り返す部分の始点(A点)と終点(B点)を設定します。
- 切 : A-Bリピート再生しません。

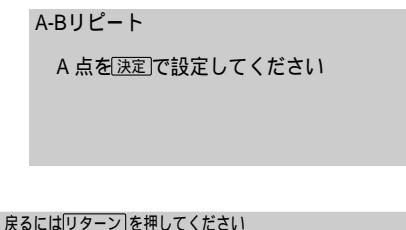
繰り返す部分を設定する

- 1 「A-B リピート」を選び、決定ボタンを押す。



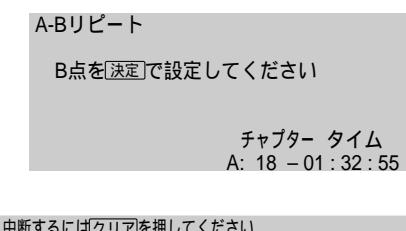
- 2 「A-B リピート」の「設定→」を選び、決定ボタンを押す。

A-Bリピート設定画面が表示されます。



- 3 再生中に繰り返す部分の始点(A点)で決定ボタンを押す。

始点(A点)が設定されます。



再生したい部分だけを繰り返す(A-Bリピート)

- 4 繰り返す部分の終点(B点)でもう一度決定ボタンを押す。

指定した部分が表示され、指定した部分を繰り返し始めます。

A-Bリピート再生中は表示窓の「A-B」が点灯します。



A-Bリピートをやめるときは

リモコンのクリアボタンを押します。

● 「A-Bリピート」を直接選べます
リモコンのA↔Bボタンを押します。

ご注意

- A-Bリピートが設定できるのは1か所のみです。
- 設定したA-Bリピートは、次の場合に解除されます。
 - ディスクを取り出したとき
 - リモコンの電源ボタンまたは本体のI/Off(電源)ボタンを押して、電源を切ったとき
- A-Bリピートを設定すると、シャッフル再生やリピート再生、プログラム再生は解除されます。
- DVD、ビデオCDの場面によっては、A-Bリピートの設定ができないことがあります。

設定と調整

ここでは、設定画面を使った設定と調整について説明します。

本機を初めてお使いになるときに必要な設定もあります。

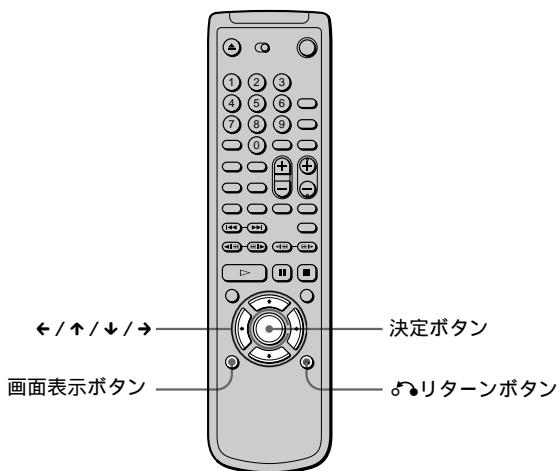
設定画面を使う



設定画面を使って、初期設定や画質や音質の調整、さまざまな出力の設定などができます。また、DVDの字幕の言語やメニューの表示言語、視聴年齢制限の設定などもできます。設定画面の項目について詳しくは、51~59ページをご覧ください。

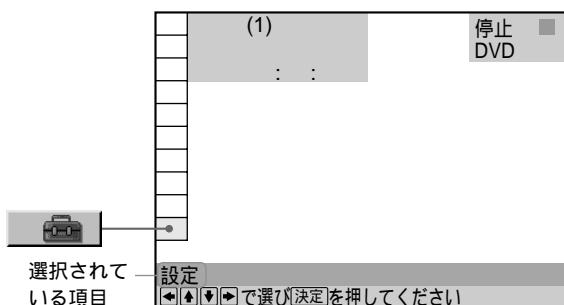
ご注意

設定画面は本機が停止しているときのみ表示できます。



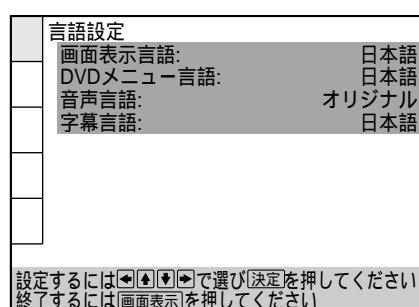
設定と調整

1 画面表示ボタンを押して、↑ / ↓で「設定」を選ぶ。



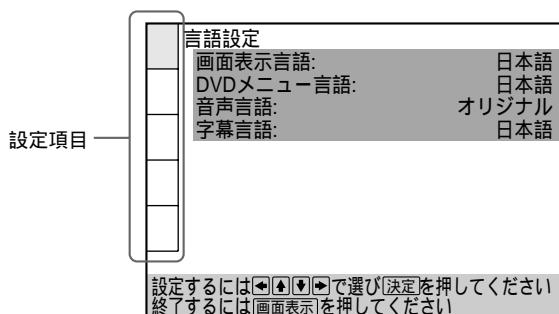
2 決定ボタンを押す。

設定画面が表示されます。



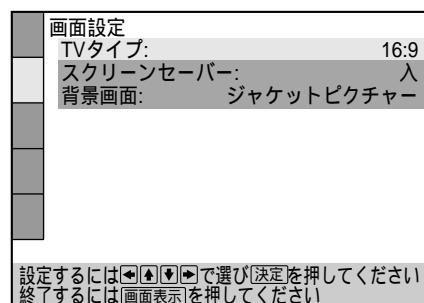
設定画面を使う

3 ↑ / ↓で設定項目を選ぶ。

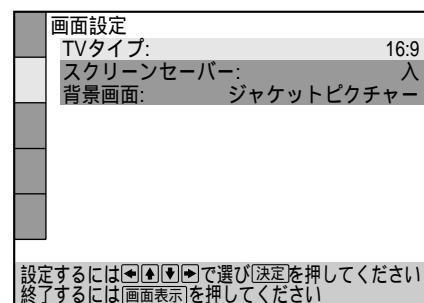


4 決定ボタンを押す。

設定項目が選ばれます。

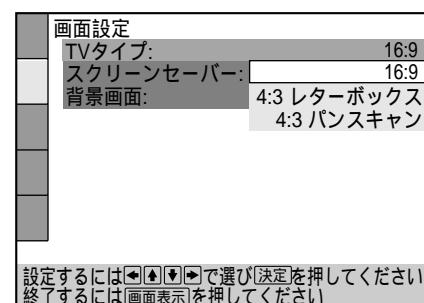


5 ↑ / ↓で項目を選ぶ。

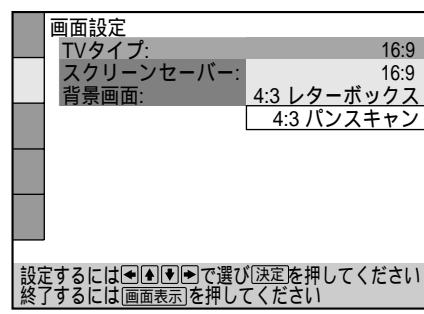


6 決定ボタンを押す。

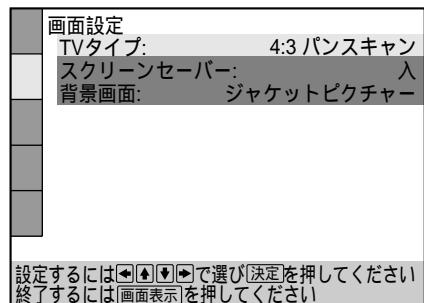
項目が選ばれます。



7 ↑ / ↓で設定内容を選ぶ。



8 決定ボタンを押す。



9 画面表示ボタンを押す。

設定画面が消えます。

10 画面表示ボタンを繰り返し押して、画面表示を消す。

ひとつ前の画面に戻るには
リターンボタンを押します。

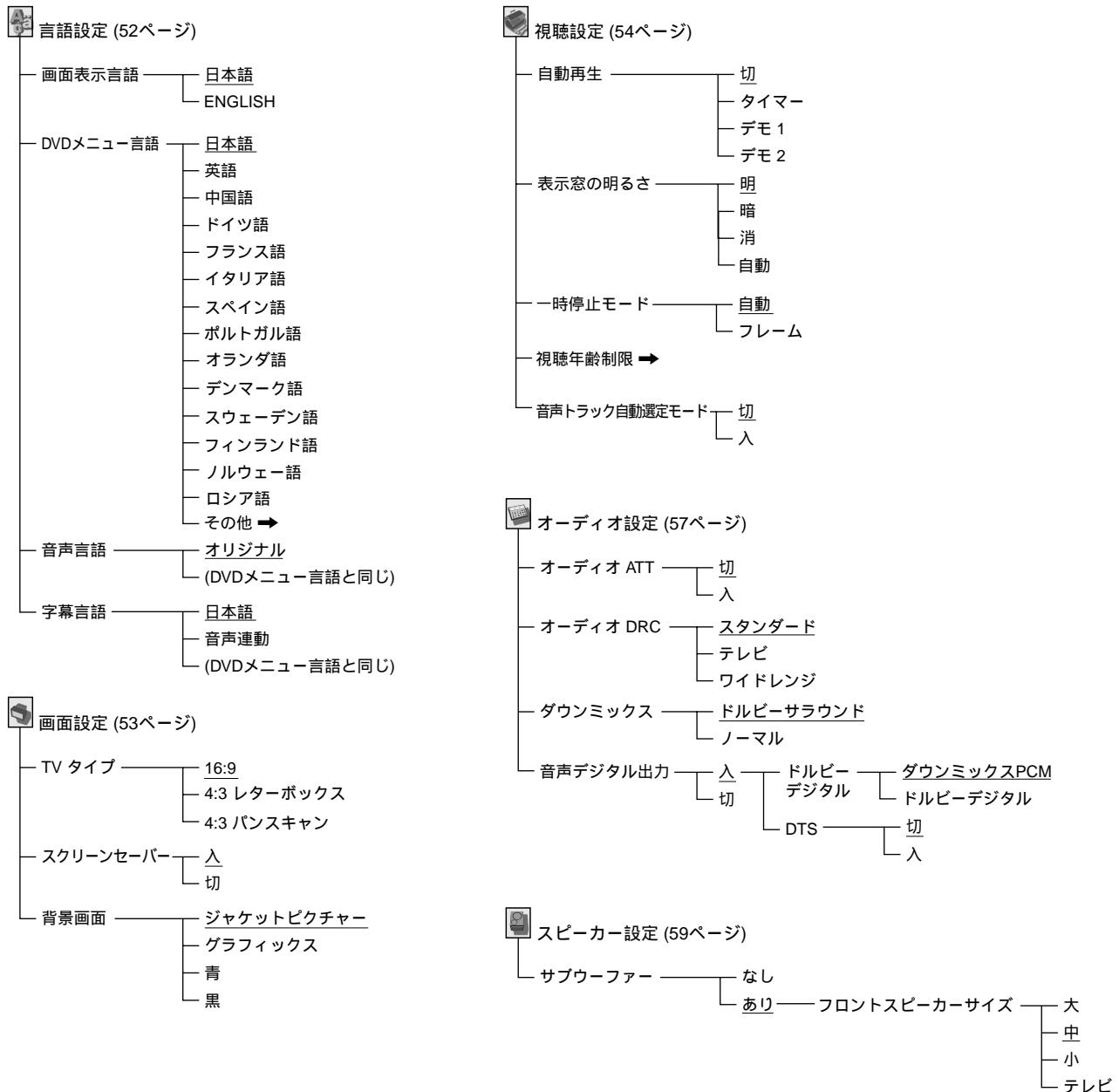
設定を途中でやめるには
画面表示ボタンを押します。

ご注意

設定画面の項目には、項目を選ぶ以外の操作が必要なものもあります。このような項目について詳しくは、次ページからの説明をご覧ください。

設定画面項目一覧表

お買い上げ時は下線の付いている項目に設定されています。



表示言語や音声言語の設定(言語設定)



DVD

VIDEO
CD

CD

言語設定画面では、画面や音声の言語を設定することができます。

お買い上げ時は下線の付いている項目に設定されています。

設定画面で「言語設定」を選びます。(選びかたー49ページ)



ご注意

- DVDに記録されていない言語を選んだときは、記録されている言語のいずれかが選ばれます(「画面表示言語」を除く)。
- 「DVDメニュー言語」または「音声言語」、「字幕言語」で言語を選んでも、DVDによっては選んだ言語で表示されないことがあります。

画面表示言語

画面の表示言語を切り替えます。

- 日本語
- ENGLISH

DVDメニュー言語

DVDに記録されているDVDメニューの言語を切り替えます。

- 日本語
- 英語
- 中国語
- ドイツ語
- フランス語
- イタリア語
- スペイン語
- ポルトガル語
- オランダ語
- デンマーク語
- スウェーデン語
- フィンランド語
- ノルウェー語
- ロシア語
- その他→

「その他→」を選んだときは、70ページの言語コード一覧表から言語番号を選んで数字ボタンで入力してください。

言語コードを選ぶと、次からは4桁の数字の言語コードが表示されます。

音声言語

DVDに記録されている音声の言語を切り替えます。

- オリジナル : ディスク内で優先されている言語
 - 日本語
 - 英語
 - 中国語
 - ドイツ語
 - フランス語
 - イタリア語
 - スペイン語
 - ポルトガル語
 - オランダ語
 - デンマーク語
 - スウェーデン語
 - フィンランド語
 - ノルウェー語
 - ロシア語
 - その他→
- 「その他→」を選んだときは、70ページの言語コード一覧表から言語番号を選んで数字ボタンで入力してください。
- 言語コードを選ぶと、次からは4桁の数字の言語コードが表示されます。

字幕言語

DVDに記録されている字幕の言語を切り替えます。

- 日本語
- 音声連動*
- 英語
- 中国語
- ドイツ語
- フランス語
- イタリア語
- スペイン語
- ポルトガル語
- オランダ語
- デンマーク語
- スウェーデン語
- フィンランド語
- ノルウェー語
- ロシア語
- その他→

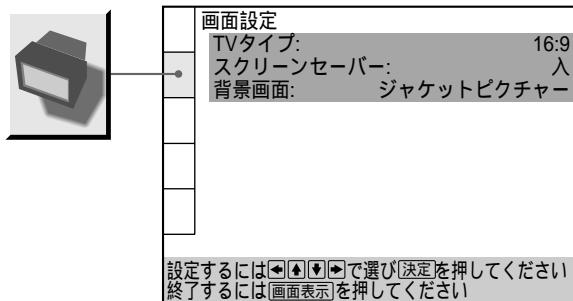
「その他→」を選んだときは、70ページの言語コード一覧表から言語番号を選んで数字ボタンで入力してください。

言語コードを選ぶと、次からは4桁の数字の言語コードが表示されます。

*「音声連動」を選ぶと、音声の言語に合わせて字幕の言語が切り換わります。

接続するテレビの形状などを設定します。
お買い上げ時は下線の付いている項目に設定されています。

設定画面で「画面設定」を選びます。(選びかたー49ページ)

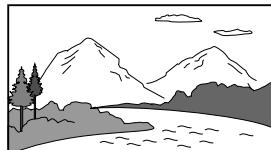


TVタイプ

接続するテレビのアスペクト比および、4:3のテレビでDVDのワイド画像を再生するときに出力する画面の形を設定します。

- 16:9 : ワイドテレビまたは、ワイドモードのある4:3のテレビで見るととき。
- 4:3 レター ボックス : 4:3のテレビで、ワイド画像を横長に表示して画面の上下には帯を入れるとき。
- 4:3 パンスキャン : 4:3のテレビに、ワイド画像の一部を自動的にカットして画面全体に表示するとき。

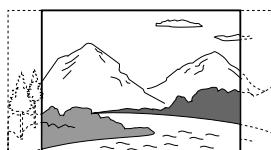
16:9



4:3 レター ボックス



4:3 パンスキャン



ご注意

DVDによっては「4:3レター ボックス」あるいは「4:3パンスキャン」に設定していても、自動的にどちらかで再生されるものがあります。

スクリーンセーバー

一時停止または停止したままで15分たつか、CDを15分以上再生すると、スクリーンセーバーの画面に切り換わるよう設定します。これは画像の焼き付き(残像現象)を防ぐのに役立ちます。

- 入 : スクリーンセーバーを使う。
- 切 : スクリーンセーバーを使わない。

背景画面

停止中やCD再生中などの、画面の背景色や背景画面を設定します。

- ジャケットピクチャー : ディスク(CD-EXTRAなど)にあらかじめ記録されているジャケットピクチャー(静止画像)を背景画面にする。
- グラフィックス : あらかじめ本機に記録されているグラフィックピクチャーを背景画面にする。
- 青 : 画面の背景色を「青」にする。
- 黒 : 画面の背景色を「黒」にする。

ご注意

「ジャケットピクチャー」を選んでいるときに、ジャケットピクチャーが記録されていないディスクを再生すると、「グラフィックス」の画像が自動的に表示されます。

視聴に関する設定(視聴設定)



DVD

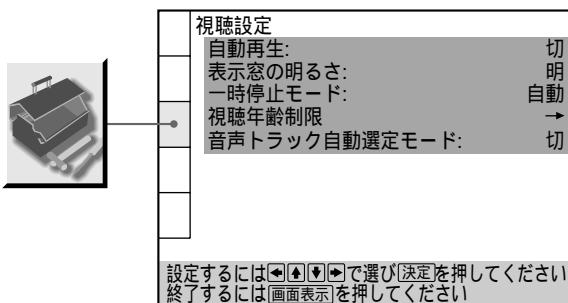
VIDEO
CD

CD

視聴年齢制限などを設定します。

お買い上げ時は下線の付いている項目に設定されています。

設定画面で「視聴設定」を選びます。(選びかたー49ページ)



自動再生

コンセントをつないだときの動作を設定します。

- 切：「タイマー」、「デモ1」、「デモ2」を使わないので起動する。
- タイマー：電源が入ったとき、自動で再生を始める。別売りのタイマーを使って希望の時刻に再生を始めることができます。
- デモ1：デモンストレーション1を再生する。
- デモ2：デモンストレーション2を再生する。

表示窓の明るさ

本体の表示窓の明るさを調整します。

- 明：明るくする。
- 暗：暗くする。
- 消：本体の表示窓の表示を消す。
- 自動：本体やリモコンを操作すると、数秒間点灯する。

一時停止モード(DVDのみ)

一時停止にしたときの画像のモードを設定します。

- 自動：大きく動きのある被写体のある画像がぶれずに見られる。通常は「自動」にしておきます。
- フレーム：動きの少ない被写体の画像が高い解像度で見られる。

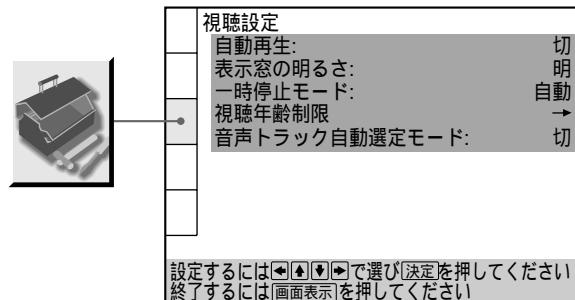
視聴年齢制限

暗証番号を登録して、視聴年齢制限のあるDVDの再生を制限する設定をします。視聴年齢制限とカスタム視聴制限(41ページ)は同じ暗証番号を使います。詳しくは「年齢による視聴制限をする」をご覧ください。

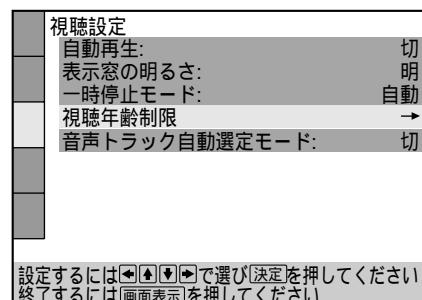
年齢による視聴制限をする DVD

DVDの中には、見る人の年齢によって視聴を制限できるものがあります。視聴年齢制限機能を使うと、この視聴制限レベルを設定することができます。

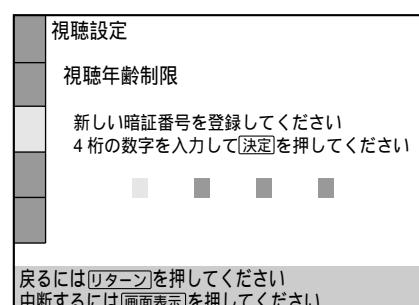
設定画面で「視聴設定」を選びます。



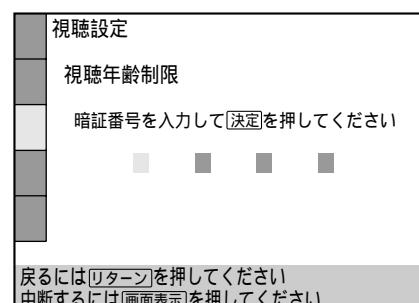
1 ↑ / ↓で「視聴年齢制限」を選んで、決定ボタンを押す。



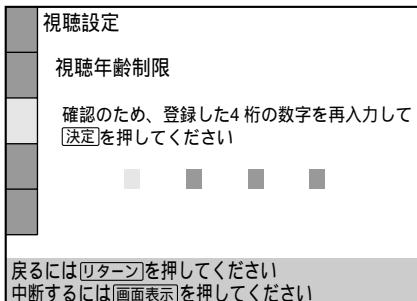
暗証番号が登録されていないとき
暗証番号入力の画面が表示されます。



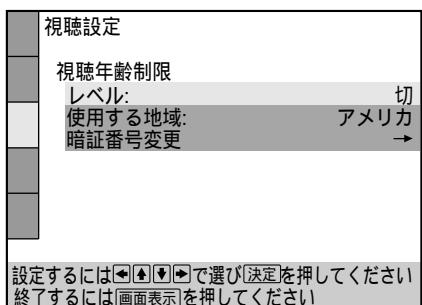
暗証番号がすでに登録されているとき
暗証番号確認の画面が出ます。手順2をとばして手順3に進みます。



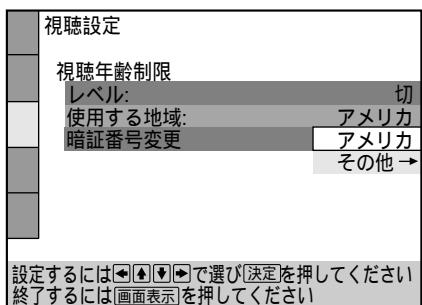
- 2 4桁の暗証番号を数字ボタンで入力し、決定ボタンを押す。
決定ボタンを押すと、数字は「*」に変わり、暗証番号確認の画面になります。



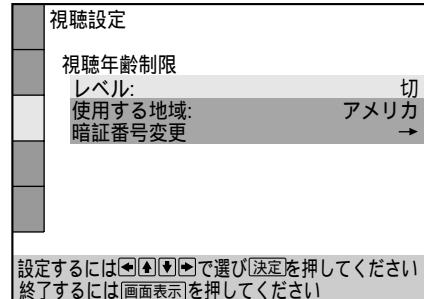
- 3 暗証番号を数字ボタンで入力し、決定ボタンを押す。
視聴制限のレベル設定および、暗証番号の変更の画面が表示されます。



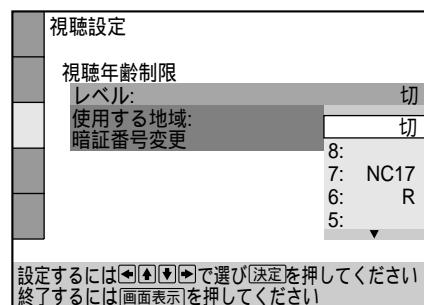
- 4 ↑/↓で「使用する地域」を選んで、→を押す。



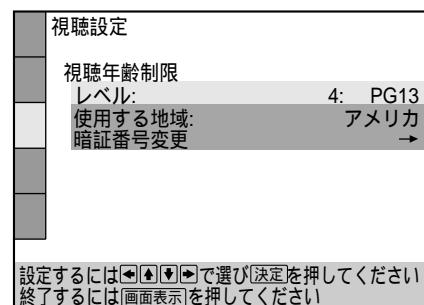
- 5 ↑/↓で視聴制限レベルの基準にする地域を選んで、決定ボタンを押す。
「その他→」を選んだときは、次ページの表を見て地域コードを数字ボタンで入力します。



- 6 ↑/↓で「レベル」を選んで→を押す。



- 7 ↑/↓で制限するレベルを選んで、決定ボタンを押す。



レベルの数字が小さいほど制限が厳しくなります。

設定を終了するには
画面表示ボタンを押します。

視聴年齢制限を解除してDVDを再生するときは
手順7で「レベル」を「切」にして、▷を押します。

視聴に関する設定(視聴設定)

暗証番号を変更したいときは

- 1 手順3で↑/↓を使って「暗証番号変更」を選び、決定ボタンを押す。
暗証番号変更の画面が出ます。
- 2 もう一度手順2と手順3を行い、新しい暗証番号を登録する。

視聴制限のレベルを設定したディスクを再生したいときは

- 1 ディスクを入れて、▷を押す。
視聴制限の暗証番号入力画面が表示されます。
- 2 4桁の暗証番号を数字ボタンで入力し、決定ボタンを押す。
再生が始まります。
DVDの再生をやめると、視聴制限のレベルはもとに戻ります。

💡 登録した暗証番号を忘ってしまったときは

視聴年齢制限画面で、暗証番号を入力する案内が表示されているとき、6桁の数字「199703」を入力します。画面に、新しい14桁の暗証番号を入力する案内が表示されます。

ご注意

- 視聴年齢制限機能がないDVDは、本機で視聴制限をしても再生は制限できません。
- 暗証番号の設定をしないと、設定値の変更ができません。
- DVDによっては、再生中に視聴制限レベルの変更を要求されることがあります。このときは暗証番号を入力してレベルを変更してください。なお、停止すると元のレベルに戻ります。
- 視聴年齢制限とカスタム視聴制限(41ページ)は同じ暗証番号を使います。

使用する地域	コード番号	使用する地域	コード番号
アルゼンチン	2044	チリ	2090
イギリス	2184	デンマーク	2115
イタリア	2254	ドイツ	2109
インド	2248	日本	2276
インドネシア	2238	ニュージーランド	2390
オーストラリア	2047	ノルウェー	2379
オーストリア	2046	パキスタン	2427
オランダ	2376	フィリピン	2424
カナダ	2079	フィンランド	2165
韓国	2304	ブラジル	2070
シンガポール	2501	フランス	2174
スイス	2086	ベルギー	2057
スウェーデン	2499	ポルトガル	2436
スペイン	2149	香港	2219
タイ	2528	マレーシア	2363
台湾	2543	メキシコ	2362
中国	2092	ロシア	2489

音声トラック自動選定モード

複数の音声記録方式が用意されているDVDを再生するときに、チャンネル数の最も多い音声記録方式(PCM、DTS、ドルビーデジタル)を優先して再生することができます。お買い上げ時は下線の付いている項目に設定されています。

- 切：優先しない。
- 入：優先する。

ご注意

- この設定を「入」にすると、言語が切り換わることがあります。これは「音声トラック自動選定モード」の設定が「言語設定」の「音声言語」(52ページ)より優先されるためです。
- 「オーディオ設定」の「音声デジタル出力」で「入」を選び、「DTS」を「切」に設定していると、「音声トラック自動選定モード」で「入」を選んで、DTS音声がチャンネル数が最も多くても、DTS音声は再生されません。
- PCM、DTS、ドルビーデジタルのチャンネル数が同じだった場合、PCM、DTS、ドルビーデジタルの順で優先されます。
- DVDによっては優先する音声があらかじめ決められていることがあります。この場合「入」に設定しても、チャンネル数の多い音声記録方式が優先されないことがあります。

音声に関する設定(オーディオ設定)

再生するときの音の設定を、再生や接続などの条件に合わせて設定します。

お買い上げ時は下線の付いている項目に設定されています。

設定画面で「オーディオ設定」を選びます。

(選びかた—49ページ)



アニュエイション

オーディオATT (attenuation)

音が歪むときにこの設定を「入」にします。本機の音声出力レベルを低くします。接続している機器にあわせて、AUDIO OUT端子からの出力を選びます。

- 切：オーディオATTを働かせない。
通常は「切」にする。
- 入：音が歪まないように音声の出力レベルを低くする。
テレビのスピーカーからの音が歪むときなどにこの設定を選ぶ。

ご注意

この設定はDIGITAL OUT (OPTICAL)端子からの出力には影響しません。

オーディオDRC (Dynamic Range Control)

DVDの音量を下げて聞くときに、小さい音までよく聞こえるようにします。オーディオDRC機能のあるDVDを再生しているときのみ効果があります。この機能は、AUDIO OUT端子からの出力および「音声デジタル出力」を「入」に設定し、「ドルビーデジタル」を「ダウンミックスPCM」に設定したとき、DIGITAL OUT (OPTICAL)端子の出力に働きます。

- スタンダード：通常は「スタンダード」にする。
- テレビ：小さい音までよく聞こえるようにする。特に、テレビのスピーカーを使って音を聞いているときに効果がある。
- ワイドレンジ：臨場感のある音になる。高品質のスピーカーを使っているときに効果がある。

ご注意

オーディオDRC機能のないDVDを再生しているときは、効果がありません。

ダウンミックス

LS(リア：左)またはRS(リア：右) S(リア：モノラル)などのリア信号成分を含むドルビーデジタル方式で記録されているDVDを再生するとき、ダウンミックスの方式を切り換えます。リア信号成分について詳しくは、「再生しているチャンネルを表示する」(36ページ)をご覧ください。

「ダウンミックス」の設定は次の端子からの出力に影響します。

- AUDIO OUT端子
- DIGITAL OUT (OPTICAL)端子(「音声デジタル出力」を「入」に設定し、「ドルビーデジタル」を「ダウンミックスPCM」に設定したとき)
 - ドルビーサラウンド：ドルビーサラウンド(プロロジック)に対応しているオーディオ機器に接続しているときに選ぶ。ドルビーサラウンド(プロロジック)の効果のかかった出力信号が2チャンネルにダウンミックスされる。
 - ノーマル：ドルビーサラウンド(プロロジック)に対応していないオーディオ機器に接続しているときに選ぶ。ドルビーサラウンド(プロロジック)効果がかかっていない信号が出力される。

音声デジタル出力

DIGITAL OUT (OPTICAL)端子から出力する音声信号の方式を切り換えます。

- 入：通常は「入」にする。「入」を選んだら、「ドルビーデジタル」および「DTS」を設定する(詳しくは、「音声デジタル出力の信号を設定する」を参照)。
- 切：DIGITAL OUT (OPTICAL)端子から音声信号を出力しない。「切」を選ぶとデジタル回路がアナログ回路に与える影響を最小限に抑えられる。

ご注意

- サンプリング周波数が96 kHzの音声トラックを再生しているとき、DIGITAL OUT (OPTICAL)端子から出力する信号は48 kHzに変換されて出力されます。AUDIO OUT端子から出力する信号は96 kHzのままアナログ信号に変換されて出力されます。

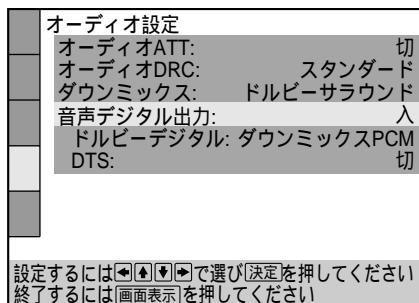
- 「切」を選んでいるときは、「ドルビーデジタル」および「DTS」を設定できません。

音声に関する設定(オーディオ設定)

音声デジタル出力の信号を設定する

DIGITAL OUT (OPTICAL)端子に、光デジタル接続コードを使って、次のような機器をつないだときの、音声信号の出力方式を設定します。

- デジタル端子のあるアンプ
 - ドルビーデジタルまたはDTSデコーダー内蔵のオーディオ機器
 - MDデッキまたはDATデッキ
- 接続について詳しくは、16、19ページをご覧ください。
「音声デジタル出力」で「入」を選んでから、「ドルビーデジタル」および「DTS」を設定してください。



設定と調整

お買い上げ時は下線の付いている項目に設定されています。

ドルビーデジタル

DIGITAL OUT (OPTICAL)端子から出力するドルビーデジタル信号の方式を選びます。「音声デジタル出力」で「切」を選んでいるときは設定できません。

- ダウンミックスPCM：ドルビーデジタルデコーダーを内蔵していないオーディオ機器をつないだときに選ぶ。
ドルビーデジタルの音声を再生すると2chにダウンミックスされる。出力される信号のサラウンド効果の有無は「オーディオ設定」の「ダウンミックス」の設定によって決まる。
- ドルビーデジタル：ドルビーデジタルデコーダーを内蔵したオーディオ機器につないで音を出すときに選ぶ。
ドルビーデジタルデコーダーを内蔵していないオーディオ機器をつないだときは、この設定にしない。誤って設定すると、音が出なかったり異音が出て耳に悪影響を及ぼしたりスピーカーを破損したりすることがある。

ご注意

「ダウンミックスPCM」を選んでいるときは、「VES」を「切」に設定してください。「切」にしないと、DIGITAL OUT (OPTICAL)端子から信号が出力されなくなります。

DTS

DIGITAL OUT (OPTICAL)端子から出力するDTS信号の方式を選びます。「音声デジタル出力」で「切」を選んでいるときは設定できません。

- 切：DTSデコーダーを内蔵していないオーディオ機器をつないだときに選ぶ。
- 入：DTSデコーダーを内蔵しているオーディオ機器をつなぎでいるときに選ぶ。

DTSデコーダーを内蔵していないオーディオ機器をつないだときは、この設定にしない。誤って設定すると、音が出なかったり異音が出て耳に悪影響を及ぼしたり、スピーカーを破損したりすることがある。

ご注意

設定は正確に選んでください。誤って設定すると、音が出なかったり異音が出て耳に悪影響を及ぼしたりスピーカーを破損したりすることがあります。

サブウーファーの設定をする(スピーカー設定)



サブウーファーを接続した場合、フロントスピーカーの大きさにあわせてサブウーファーから出力する周波数帯域を変えることができます。この設定により、サラウンドをより楽しむことができます。

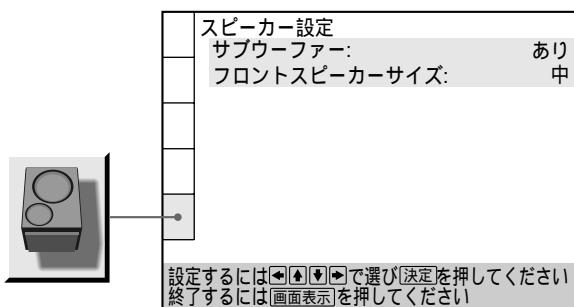
なお、「サブウーファー」の設定を変えても、フロントスピーカーから出力する音声は変わりません。

スピーカーの接続については、18~20ページをご覧ください。

お買い上げ時は下線の付いている項目に設定されています。

設定画面で「スピーカー設定」を選びます。

(選びかたー49ページ)



サブウーファー

WOOFER OUT端子にサブウーファーをつないでいるか、いないか選びます。

- なし：サブウーファーをつないでいない。
- あり：サブウーファーをつないでいる場合は、「フロントスピーカーサイズ」を設定する(詳しくは、「サブウーファーの出力レベルを設定する」を参照)。

サブウーファーの出力レベルを設定する

「サブウーファー」を「あり」に設定したときは、つないだフロントスピーカーの大きさを選びます。この設定により、フロントスピーカーの大きさに合った周波数帯域がサブウーファーから出力されます。

フロントスピーカーサイズ

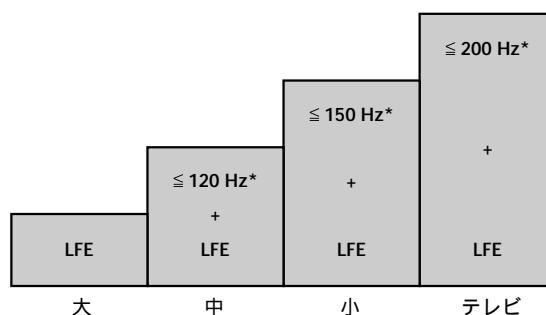
- 大：低域を十分に再生できる大きなスピーカーを接続していて、LFE信号が入っているディスク(5.1チャンネルで記録されたDVDなど)を再生するときに選ぶ。
「大」に設定してフロントスピーカーからの低音が足りないと感じたときは、「中」を選ぶ。

ご注意

LFE信号が録音されていないディスクでは、「大」を選んでもサブウーファーから音は出ません。

- 中：低域を十分に再生できる大きなスピーカーを接続していて、LFE信号が入っていないディスク(CDまたは2チャンネルで記録されたDVDなど)を再生するときに選ぶ。フロントスピーカーの低域部分もサブウーファーから出力される。
「中」に設定してフロントスピーカーからの低音が足りないと感じたときは、「小」を選ぶ。
- 小：フロントスピーカーからの低音が足りないと感じたときに選ぶ。フロントスピーカーで出力できない低域がサブウーファーから出力される。
「小」に設定してフロントスピーカーからの低音が足りないと感じたときは、「テレビ」を選ぶ。
- テレビ：テレビのスピーカーで音を聞くときに選ぶ。低域はサブウーファーから出力される。
小型スピーカーをつないだときも、「テレビ」にする。

「フロントスピーカーサイズ」の設定により、サブウーファーからは次のようにLFE信号と周波数帯域が選択されます
LFE信号は、ディスクに録音されている場合のみ出力されます。



* LFE信号以外の音声信号

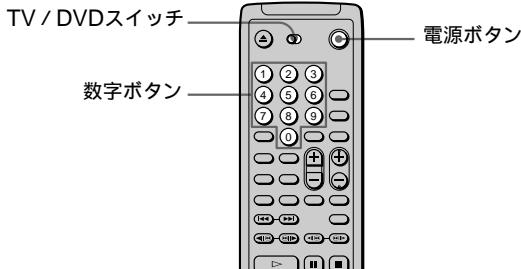
ご注意

サンプリング周波数96 kHzのPCM音声トラックの信号は、WOOFER OUT端子から出力されません。

付属のリモコンでテレビやアンプを操作する

リモコン信号をお手持ちのテレビのメーカーに合わせると、本機のリモコンでテレビのチャンネルや音量、電源などを操作できます。お買い上げ時はソニー製のマーク付きテレビを操作できるよう設定されています。

またAVアンプに本機をつないでいるときは、本機のリモコンで音量の調節などアンプの操作をすることもできます。



リモコンで各社のテレビを操作する

まず、リモコン信号をテレビのメーカーに合わせます。

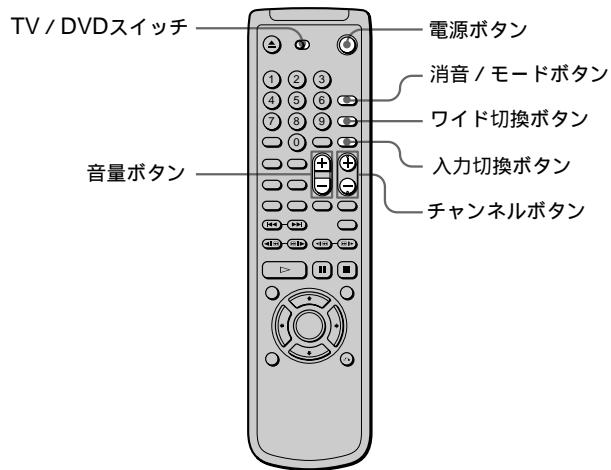
- 1 TV / DVDスイッチを「TV」側にする。
- 2 リモコンの電源ボタンを押したまま、テレビのメーカー番号(2桁)を数字ボタンで入力する。
メーカー番号が2つ以上あるときは、順に試してテレビが操作できるものをお選びください。

テレビのメーカー	メーカー番号
ソニー	01(お買い上げ時の設定) 12
松下電器	02、13
東芝	03
日立製作所	04
三菱電機	05
日本ビクター	06
三洋電機	07、15
シャープ	08、16
NEC	09
パイオニア	10
富士通ゼネラル	11
フナイ	14
アイワ	17
三星電子(SAMSUNG)	18

ご注意

- メーカー番号を入力すると、それまでのメーカー番号は消えてしまいます。
- リモコンの電池を取り換えたときは、メーカー番号が01(ソニー)に戻ることがあります。その場合は、メーカー番号をもう一度合わせ直してください。

以下のボタンでテレビの操作ができるようになります
電源ボタンやテレビ音量ボタン、および消音 / モードボタンを使うときは、TV / DVDスイッチを「TV」側にします。



押すボタン	できること
電源	テレビの電源を入 / 切する。
入力切換	テレビの入力を切り換える。
ワイド切換	テレビのワイドモードを切り換える。
音量	テレビの音量を調節する。
チャンネル	テレビのチャンネルを変える。
消音 / モード	テレビの音を一時的に消す。

ご注意

テレビによってはメーカー番号を合わせても操作できないことや、一部のボタンが使えないことがあります。

AVアンプを操作する

まず、リモコン信号をAVアンプのメーカーに合わせます。

- 1 TV / DVDスイッチを「DVD」側にする。
- 2 リモコンの電源ボタンを押したまま、本機をつないでいるAVアンプのメーカー番号(2桁)を数字ボタンで入力する。
メーカー番号が2つ以上あるときは、順に試してAVアンプが操作できるものをお選びください。

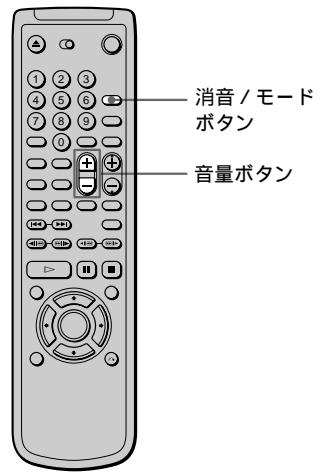
AVアンプのメーカー	メーカー番号
ソニー	88(お買い上げ時の設定) 89、91
デンオン	84、85、86
ケンウッド	92、93
オンキヨー	81、82、83
パイオニア	99
山水電気	87
松下電器	97、98
ヤマハ	94、95、96

ご注意

- メーカー番号を入力すると、それまでのメーカー番号は消えてしまいます。
- リモコンの電池を取り換えたときは、メーカー番号が88(ソニー)に戻ることがあります。その場合は、メーカー番号をもう一度合わせ直してください。

以下のボタンでAVアンプの操作ができるようになります

操作をするときは、TV/DVDスイッチを「DVD」側にします。



押すボタン	できること
音量	音量を調節する。
消音 / モード	ソニー製AVアンプのサラウンドモードを切り換える。

ご注意

- AVアンプによってはメーカー番号を合わせても操作できないことがあります。
- ソニー製アンプでも、消音 / モードボタンでサラウンドモードの切り換えができないものもあります。

その他

この章では、本機をご使用になる上での参考として役立つ情報を説明しています。

故障かな？と思ったら

本機の調子がおかしいとき、修理に出す前にもう1度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、お客様ご相談センターにお問い合わせください。

電源

電源が入らない。

- I/Off(電源)ボタンのランプが点灯していないければ、電源コードがしっかりと差し込まれているか確認する。

電源が自動的に切れる。

- オートパワーオフ機能が働いている。
ディスクが再生されなかったり、本体やリモコンの操作を30分以上行わなかったりすると、本機の電源が自動的に切れる。本体のI/Off(電源)ボタンやリモコンの電源ボタンを押して電源を入れる。

映像

映像が出ない。

- 接続コードのプラグがしっかりと差し込まれていない。
- 接続コードが断線している。
- テレビの入力端子を間違えている(14ページ)。
- テレビの電源が入っていない。
- テレビの入力切り換えでCD/DVDプレーヤーの映像が映るようにしていない。

映像が乱れる。

- ディスクに汚れ、傷がある。
- 本機の映像出力をビデオデッキを経由してテレビに接続していると、一部のDVDプログラムに使用されているコピー保護信号が画質に悪影響を及ぼす可能性がある。本機をテレビに直接接続していても画質に問題が生じる場合は、テレビのS映像入力端子へ接続する(14ページ)。

設定画面の「画面設定」の「TVタイプ」で設定した画像アスペクト比で再生できない。

- 画像アスペクト比が固定されているディスクを再生している。

画面に英語でメッセージが表示される。

- 設定画面の「言語設定」の「画面表示言語」が「ENGLISH」になっている(52ページ)。

ビデオCDのメニュー画面が表示されない。

- PBC対応でないビデオCDを再生している。
- PBC対応のビデオCDで決められた操作をしていない。ビデオCDの取扱説明書もあわせて見る。

音声

音が出ない。

- 接続コードのプラグがしっかり差し込まれていない。
- 接続コードが断線している。
新しい接続コードを使う。
- アンプの入力端子を間違えている(16ページ)。
- アンプまたはテレビの電源が入っていない。
- アンプの入力切換でCD/DVDプレーヤーの音声が出るようにしていい。
- 一時停止、スロー再生になっている。
- 早送りまたは早戻しなっている。
- スピーカーの接続を確認する(14、16、18~20、59ページ)。
接続したアンプの取扱説明書もあわせて見る。
- ドルビーデジタルの音声をDIGITAL OUT (OPTICAL)端子から出力するときは、設定画面の「音声デジタル出力」を「入」に設定する。「入」に設定しないと、DIGITAL OUT (OPTICAL)端子から音が出ない(57ページ)。
- DIGITAL OUT (OPTICAL)端子に接続しているときに、コントロールメニュー画面で「VES」を「切」以外の設定にしている。
「VES」を「切」にする(39ページ)。
- DTS音声を再生しているときは、DIGITAL OUT (OPTICAL)端子からのみ音が出る(23ページ)。

雑音が多い。

- ディスクに汚れ、傷がある。
- CDのDTS音声を再生しているとき、DIGITAL OUT (OPTICAL)端子以外の端子から雑音が出る(23ページ)。

音がひずむ。

- 設定画面の「オーディオ設定」の「オーディオ ATT」を「入」にする(57ページ)。

ビデオCD、CDを再生したときに、音に奥行き感がない、モノラルのように聞こえる

- コントロールメニュー画面で「音声」を「ステレオ」にする(36ページ)。
- 正しく接続されているか確認する(14、16、18~20ページ)。

ドルビーデジタルの音声トラックを再生しているのにサラウンド効果がかからない

- スピーカーの設定が間違っている(18~20、59ページ)。
接続した5.1ch入力端子付きAVアンプの取扱説明書もあわせて見る。
- ドルビーデジタルのディスクであっても、5.1chすべてから出力されないもの(モノラルやステレオなど)がある。

操作

リモコンで操作できない。

- リモコンと本体との間に障害物がある。
- リモコンと本体との距離が離れている。
- 本体のリモコン受光部図に向け操作していない。
- リモコンの電池が消耗している。

再生が始まらない。

- ディスクが入っていない(テレビ画面に、「ディスクを入れてください」の表示が出ている)。
- ディスクが裏返しに入っている。
再生面を下にする。
- ディスクに汚れ、傷がある。
- CD-ROMなどの、再生できないディスクを入れている(9ページ)。
- 本機で再生できない地域番号のDVDを入れている(8ページ)。
- 結露している。ディスクを取り出して電源を入れたままの状態で約30分放置し、再度電源を入れ直してから再生を始める(10ページ)。

再生がディスクの最初から始まらない。

- プログラムまたはシャッフル、リピート、A-Bリピート再生になっている(43~48ページ)。
クリアボタンを押してこれらの機能を解除してから、再生を始める。
- リピート再生になっている。
停止中に、本体またはリモコンの(停止)ボタンを押してから再生を始める(25ページ)。
- 自動的にタイトルメニュー、DVDメニュー、PBCのメニューの画面が表示されるディスクを入れている。

再生が自動的に始まる。

- 自動的に再生が始まるDVDを入れている。
- 設定画面の「視聴設定」の「自動再生」で「タイマー」を選んでいる(54ページ)。

故障かな？と思ったら

再生が自動的に止まる。

- ディスクによってはオートポーズ信号が記録されているものがある。このようなディスクを再生すると、オートポーズ信号のところで自動的に再生が止まる。
- ディスクに汚れ、傷がある。

ストップ、サーチ、スロー、リピート再生、シャッフル再生、プログラム再生などの操作ができない。

- 操作を禁止しているディスクを再生している。
ディスクに付属の説明書もあわせて見る。

希望する言語で画面表示されない。

- 設定画面の「言語設定」の「画面表示言語」で希望の言語を選ぶ。

音声言語を変更できない。

- 再生しているDVDに複数の音声言語が記録されていない。
- 音声言語の切り替えを禁止しているDVDを再生している。

字幕を変更できない。

- 再生しているDVDに複数の字幕が記録されている。
- 字幕の変更を禁止しているDVDを再生している。

字幕を消すことができない。

- 字幕表示を消すことを禁止しているDVDを再生している。

アングルを変更して見ることができない。

- 再生しているDVDに複数のアングルが記録されていない。
- 表示窓の「ANGLE」が点灯していない場面で、アングルを切り換えている(28、38ページ)。
- アングルの変更を禁止しているDVDを再生している。

正常に動作しない。

- 静電気などの影響で正常に動作しなくなったときは、電源コンセントを抜き差しして、もう一度動作させる。

表示窓に何も表示されない。

- 設定画面の「視聴設定」の「表示窓の明るさ」を「消」または「自動」にしている。「明」または「暗」にする(54ページ)。

画面および表示窓に5桁のアルファベットと数字が表示されている。

- 自己診断機能が働いている。66ページの表にしたがって対応する。

ディスクが取り出せず、表示窓に「LOCKED」と表示される。

- お買い上げ店またはソニーサービス窓口、お客様ご相談センターに問い合わせる。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書の「故障かな？と思ったら」の項を参考にして、故障かどうかを点検してください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にある近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間の経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社では、CD/DVDプレーヤーの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能期間とさせていただきます。保有期間を経過した後も、故障箇所によつては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

なお、補修用性能部品の保有期間は通商産業省の指導にもよるものです。

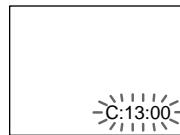
ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

- 型名：DVP-F15
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 自己診断機能の状況：
- 故障したときに再生していたディスク：
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

その他

自己診断機能について(アルファベットで始まる表示が出たら)

本機の異常を未然に防ぐため、自己診断機能が働くと、画面および表示窓にアルファベットと数字で5桁のサービス番号(例:C 13 00)が表示され、点滅します。その際は次のように対応してください。



サービス番号	これが原因です	次のことを確認してください
最初の3桁		
C 13	ディスクが汚れている	柔らかい布でディスクを拭く(11ページ)
C 31	ディスクが正しく入っていない	ディスクを正しく入れ直す
E XX(XXは任意の数)	異常を未然に防ぐため自己診断機能 が働きました。	お近くのソニーサービス窓口にご相談ください。その際はサービス 番号の5桁すべてをお知らせください。 例:E 61 10

主な仕様

システム

形式	CD/DVDプレーヤー
信号方式	EIAJ標準、NTSCカラー方式

音声特性

周波数特性	DVD(PCM 96 kHz再生時): 2 Hz ~ 44 kHz(±1 dB)* DVD(PCM 48 kHz再生時): 2 Hz ~ 22 kHz(±0.5 dB)* CD: 2 Hz ~ 20 kHz(±0.5 dB)*
信号対雑音比(S/N比)	115 dB*(AUDIO OUT1、2端子のみ)
全高調波ひずみ率	0.0025 %*
ダイナミックレンジ	DVD: 102 dB* CD: 98 dB*
ワウ・フランジャー	測定限界(±0.001% W PEAK) 以下*

出力端子

端子名	端子形状	最大出力 レベル	負荷インピー- ダンス
AUDIO OUT (1, 2)	ピンジャック	2 Vrms (50 k)	10 k 以上
DIGITAL OUT (OPTICAL)	光出力 コネクター	-18 dBm	発光波長 660 nm
VIDEO OUT	ピンジャック	1.0 V _{P-P}	75 同期負
S-VIDEO OUT	4 ピンミニ DIN	輝度信号: 1.0 V _{P-P} 色信号: 0.286 V _{P-P}	75 同期負 終端
COMPONENT VIDEO OUT D1	D端子	Y: 1.0 V _{P-P} C _B /B-Y, C _R /R-Y: 0.7 V _{P-P}	75 同期負 終端
WOOFER OUT	ピンジャック	2 Vrms (50 k)	10 k 以上

電源、その他

電源	AC 100 V, 50/60 Hz
消費電力	12 W
最大外形寸法	215×60×303 mm (幅/高さ/奥行き)
質量	約2.3 kg
許容動作温度	5~35 °C
許容動作湿度	25~80 %

付属品

12ページをご覧ください。

* EIAJ(日本電子機械工業会)の規格による測定値です。
96 kHzPCM音声の測定はAUDIO OUT(1, 2)端子を使用。96 kHzPCM音声は、DIGITAL OUT(OPTICAL)端子からは48 kHzに変換されて出力されます。

仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがあります。ご了承ください。

用語解説

視聴年齢制限(54ページ)

国ごとの規制レベルに合わせて、視聴年齢制限に対応したディスクの再生を制限する、というDVDの機能。制限のしかたはDVDによって異なり、全く再生できない場合や過激な場面をとばしたり、別の場面に差し替えて再生する場合などがある。

タイトル(9ページ)

DVDに記録されている映像や曲の区切りのいちばん大きな単位。通常は映像ソフトでは映画1作品、音楽ソフトではアルバム1枚(あるいは1曲)にあたる。それぞれのタイトルに順に付けられた番号をタイトル番号という。

チャプター(9ページ)

DVDに記録されている映像や曲の区切りで、タイトルより小さい単位。1つのタイトルはいくつかのチャプターで構成され、それぞれのチャプターに順に付けられた番号をチャプター番号という。

DTS(9、58ページ)

デジタルシニアシステムズ社の開発した音声のデジタル圧縮技術であり、5.1チャンネル・サラウンドに対応している。リアチャンネルはステレオになり、サブウーファーチャンネルは独立して出力される。高水準のデジタル音声を5.1チャンネルで楽しむことができる。全チャンネルが完全に分離した状態で記録されるのでチャンネル間セパレーションがよく、すべてデジタルで受け渡しされるので劣化しにくいという特長がある。

DVD(8ページ)

CDと同じ直径で、最大8時間までの動画が記録できるディスク。

片面1層で4.7GB(Giga Byte)とCDの7倍の情報が記録でき、片面2層で8.5GB、両面1層では9.4GB、両面2層では17GBが記録できる。

画像の記録はデジタル圧縮技術の世界標準規格のひとつ、「MPEG2」を採用し、映像データを約1/40(平均)に圧縮して記録する。また画像の状態に合わせて割り当てる情報量を変化させる可変レート符号化技術も採用されている。音声情報はPCMの他、ドルビーデジタルやDTSを用いて記録でき、より臨場感のある音声が楽しめる。

またマルチアングル、マルチランゲージ、視聴年齢制限などさまざまな付加機能も用意され、より高度な楽しみかたができる。

その他

D1映像信号(15ページ)

D端子付きデジタルテレビと1本のケーブルで簡単に映像信号を接続できる。コンポーネント信号で接続するため、より高画質な画像となる。D端子には対応する信号フォーマットによってD1、D2とD3端子がある。本機にはD1出力端子(525i(480i)の信号に対応*)が付いており、D1、D2およびD3端子付きデジタルテレビに対応している。

* iはインターレースの略。カッコ内の数字は有効走査線数で数えたときの別称。

デジタルシネマサウンド(DCS)(39ページ)

ソニーが開発したホームシアター用サラウンド技術のコンセプト名。従来の音楽演奏用の空間をベースとしたサラウンドとは違い、映画製作スタジオの音場をシミュレートした、「映画館の迫力を家庭で楽しむ」ためのサラウンドになっている。DCSにはさまざまなサラウンドプログラムが用意されている。たとえば、「VES(バーチャルエンハンストサラウンド)」は、フロントスピーカー2台のみで後方に複数のスピーカーを配置したかのようなサラウンドを楽しむことができる。

トラック(9ページ)

CDやビデオCDに記録されている、映像や曲の区切り(1曲分のこと)。それぞれのトラックに順に付けられた番号をトラック番号という。

ドルビーデジタル(16、39ページ)

ドルビーラボラトリーズ社の開発した音声のデジタル圧縮技術であり、5.1チャンネル・サラウンドに対応している。リアチャンネルはステレオになり、サブウーファーチャンネルは独立して出力される。ドルビーデジタルシネマ音声方式のような高水準のデジタル音声を5.1チャンネルで楽しむことができる。全チャンネルが完全に分離した状態で記録されるのでチャンネル間セパレーションが良く、すべてデジタルで受け渡しされるので劣化しにくいという特長がある。

ドルビープロロジック(57ページ)

ドルビーラボラトリーズ社がサラウンド音声のために開発した音声信号の処理技術。入力信号にサラウンド信号があるとき、プロロジック処理をして、フロント、センター、リアに信号を出力する。リアチャンネルはモノラルになる。

ピットレート(40、41ページ)

DVDに圧縮して記録されている画像と音声の、1秒あたりの情報量を示す値。単位は画像の場合Mbps(Mega bit per second)で、1Mbpsは1秒あたりの情報量が1,000,000ビットであることを表す。音声の場合の単位はkbps(kilo bit per second)。

この値が大きいほど情報量は多くなるが、必ずしも画質や音質とは直接関係しない。

ビデオCD(8ページ)

動画の記録されているCD。

ビデオCDでは、デジタル圧縮技術の世界標準規格のひとつ、「MPEG^{エムペグ}1」を使うことにより、映像情報を平均約140分の1に圧縮している。これにより、12cmのディスクに最大74分までの動画を記録できる。

また、音声情報についても、人間には基本的には聴こえない音声を圧縮して記録し、従来の音楽用CDと比較すると、音声情報も約6分の1に圧縮している。

ビデオCDには、動画や音声の再生だけが可能なバージョン1.1と、高精細の静止画の再生やPBC(プレイバックコントロール)機能を持ったバージョン2.0がある。本機は両方のバージョンに対応している。

マルチアングル(38ページ)

DVDの機能のひとつで、同じ場面が視点を変えて複数のアングル(カメラの位置)で記録されていること。

マルチランゲージ(36、52ページ)

DVDの機能のひとつで、同じ映像に対して音声や字幕が複数の言語で記録されていること。

プレイバックコントロール(PBC)(27ページ)

ビデオCD(バージョン2.0)に記録されている、再生をコントロールするための信号。

PBC対応ビデオCDに記録されているメニュー画面(選択画面)を使って、簡単な対話型のソフトや、検索機能を持ったソフトなどを楽しめる。

言語コード一覧表 (くわしくは36、37、52ページをご覧ください。)

言語名表記はISO639:1988(E/F)に準拠

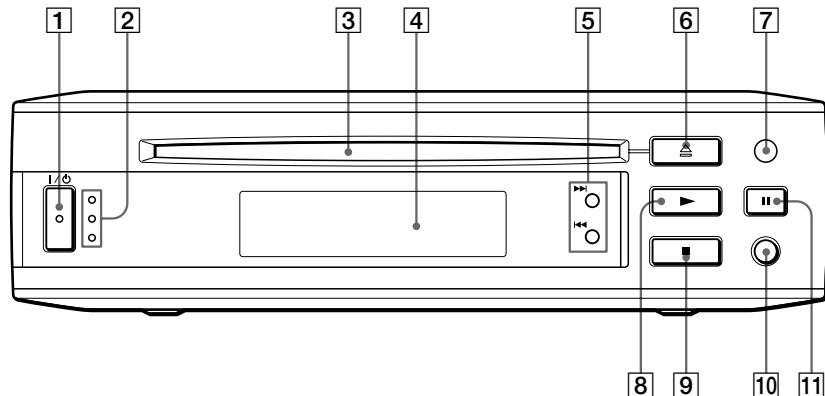
コード 言語	コード 言語	コード 言語
1027 Afar	1257 Hebrew	1506 Slovenian
1028 Abkhazian	1261 Japanese	1507 Samoan
1032 Afrikaans	1269 Yiddish	1508 Shona
1039 Amharic	1283 Javanese	1509 Somali
1044 Arabic	1287 Georgian	1511 Albanian
1045 Assamese	1297 Kazakh	1512 Serbian
1051 Aymara	1298 Greenlandic	1513 Siswati
1052 Azerbaijani	1299 Cambodian	1514 Sesotho
1053 Bashkir	1300 Kannada	1515 Sundanese
1057 Byelorussian	1301 Korean	1516 Swedish
1059 Bulgarian	1305 Kashmiri	1517 Swahili
1060 Bihari	1307 Kurdish	1521 Tamil
1061 Bislama	1311 Kirghiz	1525 Telugu
1066 Bengali; Bangla	1313 Latin	1527 Tajik
1067 Tibetan	1326 Lingala	1528 Thai
1070 Breton	1327 Laothian	1529 Tigrinya
1079 Catalan	1332 Lithuanian	1531 Turkmen
1093 Corsican	1334 Latvian; Lettish	1532 Tagalog
1097 Czech	1345 Malagasy	1534 Setswana
1103 Welsh	1347 Maori	1535 Tonga
1105 Danish	1349 Macedonian	1538 Turkish
1109 German	1350 Malayalam	1539 Tsonga
1130 Bhutani	1352 Mongolian	1540 Tatar
1142 Greek	1353 Moldavian	1543 Twi
1144 English	1356 Marathi	1557 Ukrainian
1145 Esperanto	1357 Malay	1564 Urdu
1149 Spanish	1358 Maltese	1572 Uzbek
1150 Estonian	1363 Burmese	1581 Vietnamese
1151 Basque	1365 Nauru	1587 Volapük
1157 Persian	1369 Nepali	1613 Wolof
1165 Finnish	1376 Dutch	1632 Xhosa
1166 Fiji	1379 Norwegian	1665 Yoruba
1171 Faroese	1393 Occitan	1684 Chinese
1174 French	1403 (Afan)Oromo	1697 Zulu
1181 Frisian	1408 Oriya	
1183 Irish	1417 Punjabi	
1186 Scots Gaelic	1428 Polish	1703 無指定
1194 Galician	1435 Pashto; Pushto	
1196 Guarani	1436 Portuguese	
1203 Gujarati	1463 Quechua	
1209 Hausa	1481 Rhaeto-Romance	
1217 Hindi	1482 Kirundi	
1226 Croatian	1483 Romanian	
1229 Hungarian	1489 Russian	
1233 Armenian	1491 Kinyarwanda	
1235 Interlingua	1495 Sanskrit	
1239 Interlingue	1498 Sindhi	
1245 Inupiak	1501 Sangho	
1248 Indonesian	1502 Serbo-Croatian	
1253 Icelandic	1503 Singhalese	
1254 Italian	1505 Slovak	

その他

各部のなまえ

詳しい説明は()内のページをご覧ください。

本体前面



① **I**/**○**(電源)ボタン / ランプ (22)

電源を入/切するときに押す。

② ディスクタイプランプ (22)

入れたディスクの種類のランプが点灯する。

③ ディスクスロット (22)

再生するディスクを入れる。

④ 表示窓 (28)

再生時間などを表示する。

ネクスト プリビアス

⑤ ▶NEXT/◀PREVボタン (23)

次の場面や曲に進めたり、前の場面や曲に戻したりする
ときに押す。

⑥ 合(取り出し)ボタン (22)

ディスクを取り出すときに押す。

⑦ (リモコン受光部) (12)

リモコンからの信号を受信する。

⑧ ▶(再生)ボタン / ランプ (22)

再生するときに押す。

⑨ ■(停止)ボタン (23)

再生を止めるときに押す。

⑩ VESボタン / ランプ (40)

「VES」の項目を選ぶときに押す。

「切」以外の項目を選ぶと、ランプが点灯する。

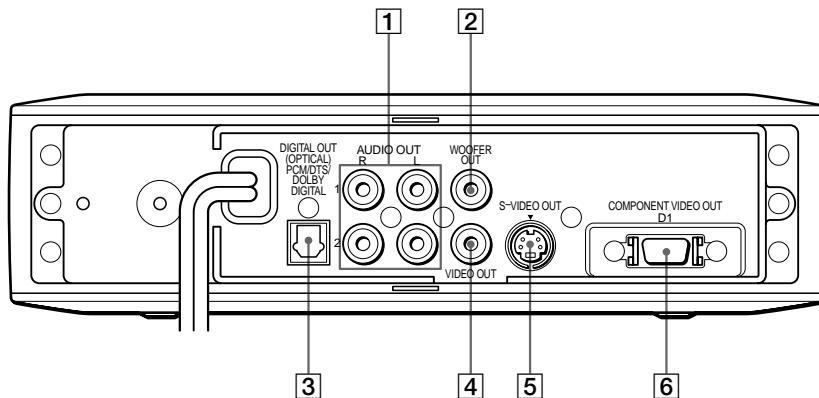
⑪ ▨(一時停止)ボタン / ランプ (23)

再生を一時停止するときに押す。

その他

各部のなまえ

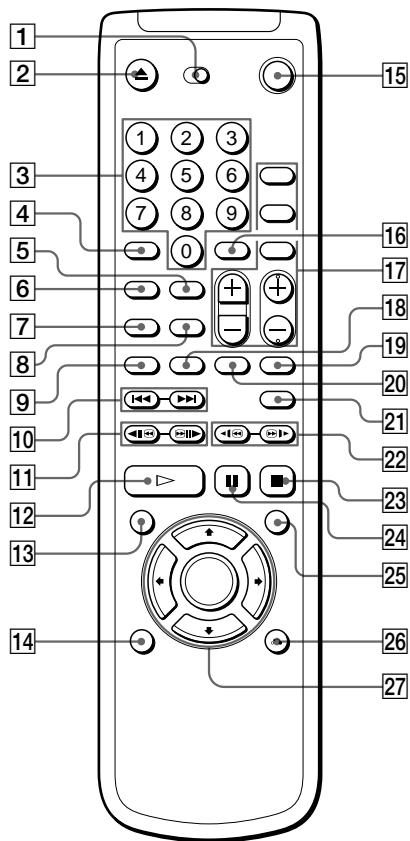
本体裏面



その他

- ①** AUDIO OUT (1, 2) (音声出力) 端子 (14, 16, 18)
オーディオ アウト
テレビやアンプの音声入力端子とつなぐときに使う。
- ②** WOOFER OUT (ウーファー出力) 端子 (18)
ウーファー アウト
サブウーファーをつなぐときに使う。
- ③** DIGITAL OUT (OPTICAL) (音声デジタル出力(光)) 端子 (16, 19, 20)
デジタル アウト オプチカル
光デジタル接続コードでオーディオ機器とつなぐときに使う。
- ④** VIDEO OUT (映像出力) 端子 (14)
ビデオ アウト
テレビやモニターの映像入力端子とつなぐときに使う。
- ⑤** S-VIDEO OUT (S映像出力) 端子 (14, 16, 18, 20)
エス ビデオ アウト
テレビやモニターのS映像入力端子とつなぐときに使う。
- ⑥** COMPONENT VIDEO OUT (コンポーネントビデオ出力) D1 端子 (15)
コンポーネント ビデオ アウト
ディー
本機の出力信号に対応したD1映像入力端子のあるテレビにつなぐときに使う。

リモコン



- 1** TV / DVDスイッチ (60)
リモコンで、テレビを操作するのか、本機またはアンプを操作するのかを選択するときに使う。
- 2** ▲(取り出し)ボタン (23)
ディスクを取り出すときに押す。
- 3** 数字ボタン
画面に表示されている項目を選ぶときに使う。
- 4** クリアボタン (44, 45, 46, 48)
選んだ数字を取り消すときに使う。
- 5** くり返しボタン (46)
リピート再生をするときに押す。
- 6** シャッフルボタン (45)
シャッフル画面をテレビ画面に出したいときに使う。
- 7** プログラムボタン (44)
プログラム画面をテレビ画面に出したいときに使う。
- 8** A↔Bボタン (48)
A↔Bリピート設定画面をテレビ画面に出したり、設定したりするときに使う。
- 9** 音声ボタン (36)
DVDやビデオCDの音声を切り換えるときに押す。

- 10** ◀◀◀前/▶▶▶次ボタン (23)
前の場面や曲に戻したり、次の場面や曲に進めたりするときに押す。
- 11** ◀◀◀/▶▶▶サーチ / ステップボタン (24)
早送りや早戻しをして場面や曲を探すときまたは、コマ送り再生をするときに押す。
- 12** ▶再生ボタン (22)
再生するときに押す。
- 13** タイトルボタン (26)
タイトルメニューを出すときに押す。
- 14** 画面表示ボタン (30)
コントロールメニュー画面を表示させるときに押す。
- 15** 電源ボタン (22)
本機またはテレビの電源を入／切するときに押す。
- 16** 決定ボタン
選んだ項目を決定するときに押す。
- 17** テレビ操作 / AVアンプ操作ボタン (60, 61)
テレビまたはアンプを操作するときに使う。
- 18** アングルボタン (38)
DVDのアングルを切り換えるときに押す。
- 19** 時間 / テキストボタン (28, 34, 35)
表示窓に再生時間などを表示させるときに押す。
- 20** 字幕ボタン (37)
DVDの字幕を切り換えるときに押す。
- 21** VESボタン (40)
「VES」の項目を選ぶときに押す。
- 22** ◀◀◀/▶▶▶スキャン / スロー ボタン (24)
早送りや早戻しをして場面や曲を探すときまたは、スロー再生をするときに押す。
- 23** ■停止ボタン (23)
再生を止めるときに押す。
- 24** II一時停止ボタン (23)
再生を一時停止するときに押す。
- 25** DVDメニュー ボタン (26)
DVDメニューを出すときに押す。
- 26** リターンボタン (27, 31)
ひとつ前の選択画面に戻りたいときに押す。
- 27** ← / ↑ / ↓ / → / 決定ボタン
画面に表示されている項目を選択 / 決定するときに使う。

その他

索引

その他

五十音順

ア行

アドバンスト 40
アングル 38
安全のために 2
一時停止モード 54
インデックス 9, 33
オーディオATT 57
オーディオDRC 57
オーディオ設定 57
お手入れ 10, 11
音声 36
音声言語 52
音声デジタル出力 57
音声トラック自動選定モード 56

力行

カスタム視聴制限設定 41
画面設定 53
画面表示言語 52
警告 4, 5
言語設定 36, 52, 70
故障かな?と思ったら 62
コマ送り 24
コントロールメニュー画面 30

サ行

サーチ 24
再生
シャッフル再生 45
速さを変えて再生 24
ふつうの再生 22
プログラム再生 43
リピート再生 46
再生できるディスク 8
サブウーファー 59
シーン 9, 33
時間 / テキスト 34, 35
視聴設定 54
視聴年齢制限 54, 68
自動再生 54
字幕 37
字幕言語 52
シャッフル 45
スキャン 24
スクリーンセーバー 53

スピーカー

接続 18, 19
調整 59
スピーカー設定 59
スロー 24
設定 49
設定画面 49
項目一覧表 51
接続 14, 16, 18, 19

タ行

タイトル 9, 33, 68
タイトルメニュー 26
ダウンミックス 57
チャプター 9, 33, 68
注意 6

ディスク

入れる 22
取り扱い 11

デジタルシネマサウンド(DCS)
39, 68

電池

安全上のご注意 7
トラック 9, 33, 68
ドルビーデジタル 16, 39, 58, 68

ハ行

バーチャルエンハンストサラウンド
39
背景画面 53
早送り 24
早戻し 24
ビットレート 40, 41, 68
ビデオCD 8, 69
表示窓 28, 29
表示窓の明るさ 54
ふつうの再生 22
プレイバックコントロール(PBC)
27, 69
プログラム 43
プロロジック 57, 68
フロントスピーカーサイズ 59

マ行

マルチランゲージ 36, 69

ラ行

リリューム再生 25
リピート 46
リモコン 12

アルファベット / 数字順

A-Bリピート 47
CD 8
CDテキスト 35
DTS 9, 58, 68
DVD 8, 68
DVDテキスト 35
DVDメニュー 26
DVDメニュー言語 52
D1映像出力 15
PBC再生 27, 69
S映像出力 14, 16, 18, 20
TVタイプ 53
VES 39
16:9 53
2+1チャンネルサラウンド 18
4:3 パンスキャン 53
4:3 レターボックス 53
5.1チャンネルサラウンド 19, 20

ソニー株式会社 〒141-0001 東京都品川区北品川 6-7-35

お問い合わせはお客様ご相談センターへ

- ナビダイヤル  0570-00-3311
- (全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます)
- 携帯電話・PHSでのご利用は 03-5448-3311
- Fax 0466-31-2595

受付時間：
月～金
9:00～20:00
土・日・祝日
9:00～17:00

保証期間中の接続・操作・故障に関するお問い合わせは
テクニカルインフォメーションセンターへ
フリーダイヤル 0120-37-8154

Sony online <http://www.world.sony.com/>

「Sony online」は、インターネット上のソニーのエレクトロニクスとエンターテインメントのホームページです。

この説明書は再生紙を使用しています。